科目名	対象コース	単位数	担当教員
現代の国語	総合･ドッグケア･パソコン	2	西山

科目の目標	･文章の内容を的確に捉え、要旨や要点を的確に理解する能力を育成する。 ･伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし、言語感覚を磨く。
使用教科書	新編現代の国語(東京書籍)

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	学習のガイダンス･中学校の復習	･一年間の学習予定を把握する。 ･漢字や語句の復習	
5月 6月 7月	「こそそめスープ」 「ルリボシカミキリの青」　「水の東西」	･筆者の考え、体験を読み取り、自分に当てはめてみる。 比較の文章を通じて、それぞれの特質について理解を深める。	1～3
8月	夏期休業課題	･漢字や語句の復習をする	
9月 10月	「りんごのほっぺ」	･戦時下の人々の状況と一貫する筆者の思いを読み取る。･	4
11月 12月	「鍋洗いの日々」	･筆者の体験談から、仕事に対する思いを読み取る。 ･進路について考えるきっかけをつくる。	5
1月 2月	「真の自立とは」	･「自立」について自分の考えを持ち、視野を広げる。	6
3月	単位認定試験	･進級に向けての学習準備	

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	―	―	50	15	50	10	25
提出物･成果物 (ノート、作品等)	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	①授業にふさわしくない発言はしない。　②課題の提出期限を守る。　③自ら考える。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
公共	総合･ドッグケア･パソコン	2	辻村　大智

科目の目標	社会との関わりを意識した「主題」や「問い」を 設け，追究したり探究したりする学習により，主体的に取り組む態度を養う。また、社会に参画する際に選択･判断するための手掛かりとなる概念や理論及び公共的な空間における基本的原理の習得を目指す。
使用教科書	東京書籍『公共』（公共 002-901）

学習計画（レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。）

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	青年期を生きる私たち	青年期に生きる自己形成の課題について考察し、キャリア開発や社会参画の視点から、シティズンシップの意義について考察する。	1
5月	他者とともに生きる人間としてのあり方	自己の幸福の追求と他者とのかかわりについて考え、幸福追求が個人の尊重に帰着することを理解する。	1
6月	公共的な空間における基本的原理	公共的な空間における基本的原理である、民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義について理解する。	1
7月	民主政治と私たち	政治と民主主義、地方自治及び国会、内閣のしくみと役割、政治参加と選挙、政党と利益集団、メディアと世論について、民主政治の実現の観点から理解する。	2
8月	夏季休業中課題―わがまちレポート―	住んでいる地域の事柄について、1つテーマを設定して、探求の活動の1つとして実施。	
9月	法の働きと私たち	法や規範の意義と役割、法の成立と適用，市民生活における法と契約、消費者の権利と責任、司法のしくみと司法参加の意義などについて、実際の社会生活の事象とも関連させながら理解する。	3
10月	経済社会で生きる私たち	日本国憲法は国の最高法規であることを理解し、また憲法の成立過程や制定の意義を学習する。	3･4
11月	私たちの職業生活	資本主義社会における労働契約、労働者の権利と労働三法、雇用環境の変化と現代の労働問題などについて、実際の職業や労働のあり方とのかかわりも含めて理解する。	4･5
12月	国際社会のなかで生きる私たち	国際社会の変容などについて、実際の事象と関連づけて理解する。	6
1月	現代の紛争とその影響	現代の紛争とその要因、紛争の解決に向けた取り組み、難民問題について理解する。	6
2月	平和な国際社会に向けて	平和の意味、外交を通じた平和の実現の意義、日本の立場と役割について、実際の事象とも関連させながら理解する。	6
3月	グローバル化する国際経済	グローバル化する国際経済の現状と課題について、貿易と国際収支、外国為替と国際通貨制度、国際経済秩序と動き、地域統合の動向、新興国の動き、南北問題の背景と推移、人口･食料問題などの観点から理解する。	6

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	―	―	50	15	50	10	25
提出物･成果物（ノート、作品等）	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	授業には教科書･副教材･公共ワークノート
	筆記用具を必ず持参してください。
	いま起こっている社会的事象について興味関心を持つようにしてください。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
科学と人間生活	総合・ドッグケア・パソコン	2	辻　正幸
科目の目標	・自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。 ・観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。 ・自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。		
使用教科書	東京書籍「科学と人間生活」(科人002-901)		

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	1編　生命の科学 1章　微生物とその利用	・微生物には，どのような種類があり，それぞれどのような特徴があるのを知る。 ・微生物は，生態系のなかでどのような役割があり，炭素の循環にどのようにかかわっているのを知る。 ・微生物は，生態系のなかの変素とどのようにかかわっているのかを知る。 ・水中の微生物は，分解者としてどのような役割を果たしているのを考える。 ・微生物の存在や特徴はどのようにして解明されてきたのかを知る。 ・発酵食品にはどのようなものがあり，微生物がどのようにかかわっているのかを調べ，理解する。 ・酵母と乳酸菌による発酵とは，どのような反応なのかを調べ，理解する。 ・微生物は，医薬品の製造にどのように役立っているのかを知る。	No．1
5月 6月	2章　ヒトの生命現象	・眼から入った情報は，どのように脳へと伝わり，視覚が生じるのかを知る。 ・眼には，どのようなはたらきがあるのか。また，太陽の光は生活にどのようにかかわっているのかを知る。 ・食物として取り入れた炭水化物は，体内でどのように利用されているのかを知る。 ・血糖濃度を一定の範囲内に維持するために，体内にはどのような仕組みがあるのかを知る。 ・私たちは，どのようにして病原体から体を守っているのかを知る。 ・予防接種はどのような方法で感染症を予防するのか。また，アレルギーとはどのようなものを知る。 ・遺伝子の本体であるDNAとは，どのようなものなのかを知る。 ・ヒトの体内では，どのようにしてタンパク質がつくられているのかを知る。 ・ヒトの体内には，どのようなタンパク質があり，それぞれどのようなはたらきをもつのかを知る。	No．2
7月	2編　物質の科学 1章　材料とその再利用	・ガラスなどの資源を再利用するためには，どのような方法があるのかを知る。 ・金属と非金属との違いは，金属の原子の構造とどのように関係しているのかを知る。 ・異なる種類の金属を区別するには，どのような性質を調べればよいのかを知る。 ・金属は，鉱石からどのようにして取り出され，利用されているのかを知る。 ・金属の再生利用(リサイクル)では，どのような方法が有効かを考える。	No．3
8月			
9月	2編　物質の科学 1章　材料とその再利用	・プラスチックとはどのような物質で，どのような種類や性質の違いがあるのかを知る。 ・高分子化合物のでき方を知る。 ・プラスチックを再生利用(リサイクル)するには，どのような方法があるのかを調べる。	No．3
10月	2章　衣料と食品	・日常生活のなかで，使われている繊維には，どのような種類があるのか調べる。 ・天然繊維には，どのような種類があるのかを調べる。 ・合成繊維には，種類によってどのような特徴があるのかを知る。 ・体に必要な栄養素には，どのようなはたらきをもった物質があるのかを知る。 ・脂質(油脂)とは，どのような物質なのかを知る。 ・炭水化物とは，どのような物質なのかを知る。 ・タンパク質とは，どのような物質なのかを知る。	No．3
11月 12月	3編　光や熱の科学 1章　光の性質とその利用	・光は，物質の境界面でどのように進むのかを知る。 ・光と波の性質には，どのような関係があるのかを知る。 ・水面の波と波が出合うと，どのような現象が見られるのか考える。 ・光のスペクトルは，光源によって，どのような違いが見られるのかを知る。 ・私たちは，どのように色を認識しているのか。また，物体の色は，何によって決まるのかを知る。 ・電磁波とは，どのようなものなのかを知る。 ・電磁波の利用について知る。	No．4
1月	2章　熱の性質とその利用	・物質の温度と原子や分子の動きには，どのような関係があるのかを知る。 ・温度の異なる物体どうしを接触させたとき，どのようなことが起こるのかを知る。 ・熱伝導，対流，放射は，それぞれどのようなしくみで熱が伝わるのかを知る。 ・エネルギーについて知る。 ・エネルギーの有効利用についてどのような事例があるか調べる。	No．5
2月 3月	4編　宇宙や地球の科学 1章　太陽と地球 2章　自然景観と自然災害	・太陽や月の日周運動について理解を深める。 ・潮位の変化について知る。 ・地球が受け取る太陽の放射エネルギーは，大気や気候にどのような影響を与えているのかを知る。 ・緯度ごとの熱のつり合いの異なりが，大気や海洋にどのような影響を与えるのかを知る。 ・四季の変化や地球規模の気象は，私たちの生活にどのように関係しているのかを知る。 ・地球規模の地形は，どのようにしてできるのかを知る。 ・断層運動がつくる地形について知る。 ・火山活動につて知る。 ・太陽エネルギーと地形や景観の関係について知る。 ・自然災害と自然現象の違いについて知る。	No．6

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動，発言，態度)	—	—	50	15	50	10	25
提出物・成果物 (ノート，作品等)	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト，ロクヨウ等	80	40	20	6	—	—	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	1　日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち，その法則性について考える態度をもつこと。 2　疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。 3　学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
体育	総合･ドッグケア･パソコン･日本語	2	北山･打田

科目の目標	運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようになるとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正･協力･責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を養う。
使用教科書	現代高等保健体育 （大修館書店)901

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	集団行動	集団の約束やきまりを守って行動する。機敏的確に行動する。互いに協力して自己責任を果たす。	
5月	体力テスト	自分自身の体力･運動能力の現状を確かめる。結果を分析し、改善を目指す。	
6月	バスケットボール	バスケットボールの基礎･基本の技術を理解し、バスケットボールの楽しさを経験する。	1,2
7月			
8月			
9月	ハードル走	ハードルそのリズムをつかむ。高いハードルを越えるための技術や柔軟性を習得する。	
10月	ソフトボール	キャッチボール、トスバッティングなどゲームに必要な技術の習得。三角野球を通じて野球型ゲームの特性を理解する。	
11月			
12月			
1月	サッカー	インサイドキック、インフロントキックなどパスをつなぐための技術を習得する。	
2月			
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	50	25	100	30	100	20	75
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	50	25	—	—	—	—	25
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	怪我をしないように、しっかりと体をほぐし、危険行為がないよう、注意をはかる。 実際に練習を行ってみて「うまくいったこと」「うまくいかなかったこと」を考慮し、対戦相手に応じた作戦を立案する。 ルール(方針)を的確に理解する。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
保健	総合･ドッグケア･パソコン	1	長田雪

科目の目標	現代社会は生活習が豊かになった一方で、生活習慣病や薬物乱用、精神疾患など健康に関わる多様な問題が多様に発生してきた。時代の流れの中で、健康のとらえ方や社会に求められていることなど現代社会で問題視されている健康の考え方について学習する。
使用教科書	901 大修館　「現代高等保健体育」

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	健康の考え方と成り立ち 私たちの健康のすがた	健康の考え方について例をあげて説明できる。 健康水準の変化とその背景について説明できる。	1
5月	生活習慣病の予防と回復 がんの原因と予防	生活習慣病の種類と要因を説明できる。 がんの種類や原因について説明できる。	
6月	がんの治療と回復 運動と健康 食事と健康	がんのおもな治療について説明できる。 健康と運動の関係について説明できる。 健康と食事の関係について説明できる。	
7月	休養･睡眠と健康 喫煙と健康	健康と休養の関係を説明できる。 喫煙やまわりに起こる害について説明できる。	
8月	夏季休業		
9月	飲酒と健康	飲酒と健康への影響を説明できる。	2
10月	精神疾患の予防 精神疾患からの回復 現代の感染症	精神疾患の予防方法について説明できる。 精神疾患の治療について説明できる。 感染症とは何か説明できる。	
11月	感染症の予防 性感染症･エイズとその予防	感染の3原則を説明できる。 性感染症･エイズなどについて説明できる。	3
12月	健康に関する意思決定･行動選択 健康に関する環境づくり	意思決定･行動選択を説明できる。 社会環境の健康影響について説明できる。	
1月	事故の現状と発生原因 安全な社会の形成	事故と被害の実態について説明できる。 安全のための行動について説明できる。	
2月	交通における安全 応急手当の意義とその基本	交通事故における責任について説明できる。 応急手当の意義について説明できる。	
3月	日常的な応急手当 心肺蘇生法	日常的なけがや熱中症について説明できる。 心肺祖施法をおこなうことができる。	

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	―	―	50	15	50	10	25
提出物･成果物 (ノート、作品等)	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	教科書の内容はもちろんのこと、「現代高等保健体育ノート」もあわせて授業をすすめてきます。必ず、授業時に持参してください。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
基礎教養	全コース	1	中塚信夫

科目の目標	①整数、小数、分数、正負の数など、計算の基礎を学び直す。 ②生活には欠かせない分野に触れ、面白さを感じるとともに、「量の感覚」を養わせる。 ③高校数学で躓きやすい文字について細かく理解させ、練習量を増やしていくことで、数学に慣れさせていく。
使用教科書	東書704「新数学Ⅰ」

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	四則演算とそれに係る文章問題	日常で使用する計算がスムーズにできる。	1
5月	四則演算とそれに係る文章問題	日常で使用する計算がスムーズにできる。	
6月	最小公倍数・最大公約数の求め方	複数の数字から最小公倍数と最大公約数について理解ができる。	2
7月	小数点を用いた計算	小数点の計算ができる。 小数点を用いた文章題をつくることができる。	
8月	夏季休業		
9月	分数の計算・通分	分数の計算ができる。 分数を用いた文章題をつくることができる。	
10月	正負の数の大小と計算	正負の数を利用した計算や平均値を求めることができる。	3
11月	正負の数の大小と計算	正負の数を利用した計算や平均値を求めることができる。	
12月	平均値の求め方	正負の数を利用した計算や平均値を求めることができる。	
1月	まとめ	レポート1～3までで学習した公式などを用い、創意工夫した文章題を作ることができる。	4
2月			
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	―	―	50	15	50	10	25
提出物・成果物 (ノート、作品等)	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	レポートは、教科書の例題を参考にして出題しており、また、試験はレポートや授業プリントから主に出題します。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
音楽Ⅰ	総合･ドッグケア･パソコン･日本語	2	新谷　麻衣

科目の目標	教科書の歌をはじめ現在ポップスで扱われている曲など生徒が興味のある音楽などを用いての混声合唱を行う。また曲の構成を考えるカを身につけるための楽典、音楽鑑賞をと幅広く取り入れ、興味･関心をより高めていきたい
使用教科書	『音楽Ⅰ　改訂版　Tutti＋』教育出版 901

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	音楽の流れ 校歌 世界に一つだけの花 鑑賞	学校の校歌を始めとして歌、鑑賞、楽典の3つをできるようにする 『世界に一つだけの花』では上と下に分かれてパートの練習を行い、2部合唱構成を図る。	
5月	校歌 世界に一つだけの花 上を向いて歩こう 少年時代 楽典 鑑賞	校歌の1番を中間試験において行う。『上を向いて歩こう』、『少年時代』ではパートの練習を行う。 楽典では音符の読み方、種類などを学ぶ。	1
6月	上を向いて歩こう 少年時代 楽典 鑑賞	歌唱はパート練習と合わせ(表現含む) 楽典ではト音･ヘ音記号の音階、音符の読み方①	2
7月	上を向いて歩こう 少年時代 楽典 鑑賞	1学期のまとめとして歌で『上を向いて歩こう』パート分けの歌唱試験、 楽典　1学期に実施した配布プリントより学期末試験	
8月			
9月	ふるさと　椰子の実 楽典 鑑賞	歌唱『ふるさと』『椰子の実』を導入。 作曲概論で4分音符だけでなく、8分音符を導入	3
10月	Santa Lucia Caro mio ben 楽典 鑑賞	民謡曲『Santa Lucia』『Caro mio ben』を導入。楽典では休符を導入し、1小節を内に入る音符の数などを把握する	4
11月	Santa Lucia Caro mio ben 楽典 鑑賞	音楽用語などの勉強も取り入れながら、演奏の向上心を高め、2学期のまとめとして理解を確認する	5
12月	Santa Lucia Caro mio ben 楽典 鑑賞	2学期のまとめとして歌は『Caro mio ben』をイタリア語で歌う。 楽典は4分音符8分音符だけにとどまらず16分音符など複雑なリズムにも対応できるようにする	
1月	O sole mio Heidenroslein Beatutiful days 楽典 鑑賞	3学期から歌で『O sole mio』『Heidenroslein』を導入。 楽典は拍数の振り分けがきちんとでき、音符･休符の種類によって1拍分の違いを理解させる	6
2月	Heidenroslein、おおシャンゼリゼ Beatutiful days 楽典 鑑賞 人権学習	3学期のまとめとして歌で『Heidenroslein』、楽典では1学期からの内容を総まとめとして筆記試験を行う。	
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	—	—	50	15	50	10	25
提出物･成果物 (ノート、作品等)	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	—	—	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	歌唱練習のパート練習を指導している間、待機中のパート対象者には学習プリントを配布しますので並行で実施となります。 また、教科書以外に「楽典」の学習プリントを用意します。配布する学習プリントは学期末の筆記試験の試験範囲となるので各自でプリントをまとめておくこと。(筆記試験前に試験対策学習プリントを配布します)

科目名	対象コース	単位数	担当教員
英語コミュニケーションⅠ	総合･ドッグケア･パソコン･日本語	2	山田　香奈子

科目の目標	外国語を通じて、言語や文化の違いに対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的なコミュニケーション能力を高める。
使用教科書	『All Aboard! English Communication Ⅰ』(東京書籍)002-901

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	pre-Lesson1 My Name Is Ito Neko pre-Lesson2 I Like Junk Food	基礎的な英単語の確認。 英語の音声を聞いてリスニング力を強化する。	
5月	Lesson1 Breakfast around the World	be動詞の用法を習得する。 一般動詞の用法を習得する。	
6月	Lesson2 Australia's Cute Quokka	進行形の用法を習得する。	1
7月	Lesson3 Life with Spade	助動詞(can,will)の用法を習得する。	2、3
8月	夏季休業		
9月	Lesson3 Life with Spade Lesson4 A Miracle Mirror	1学期の復習 to不定詞の用法を習得する。	4
10月	Lesson5 A Dream Engine Lesson6 A Funny Picture from the Edo Period	動名詞の用法を習得する。 受け身の用法を習得する。	5、6
11月	Lesson7 A Dairy of Hope Lesson8 A Door to a New Life	比較表限の用法を習得する。 現在完了形の用法を習得する。	7
12月	1年間の復習	期末テスト対策	8
1月	Lesson9 Ghosts in the Ocean	分詞の用法を習得する。	9
2月	1年間の復習	単位認定試験対策	
3月	1年間の復習	1年を振り返って復習をする。	

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	―	―	50	15	50	10	25
提出物･成果物 (ノート、作品等)	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	レポートは、教科書を参考にして出題しており、試験はレポートや授業プリントから主に出題します。 教科書、筆記用具を必ず持参してください。提出物に関しては、提出期限内にきちんと提出できているか、しっかりとすべて書かれているか、丁寧に書かれているかなども評価いたします。提出物･成果物に関しては、レポート以外のプリント等も実施いたします。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
情報Ⅰ	総合･ドッグケア･パソコン	2	松井　大

科目の目標	情報に関する科学的な見方･考え方を働かせ，情報技術を活用して問題の発見･解決を行う学習活動を通して，問題の発見･解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し，情報社会に主体的に参画するための資質･能力を養う。
使用教科書	新編情報Ⅰ【情Ⅰ901】

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	1 情報とメディアの特性[p.6] 表現メディアの違いによるメリットとデメリット 2 問題解決の流れ[p.8] 3 発想法[p.10]	･情報の特性から，情報とは何か理解する。 ･さまざまなメディアの特性を理解する。 ･問題を発見･解決するための一連の流れを理解する。 ･問題の発見･解決に情報技術が活用できることを理解する。 ･問題解決の各場面で活用できる発想法を学習する。	
5月	4 情報モラル[p.12] 5 個人情報の流出[p.14] 6 傷つかない傷つけないために[p.16] 7 著作権[p.18]	･情報社会で生活するための情報モラルを理解する。 ･情報社会の安全を守るための，法規や制度および個人の責任について学習する。 ･個人情報とはどのようなものか理解する。 ･SNSを通して個人情報が流出･特定される仕組みを学習する。 ･SNS等の不適切な使い方による問題を理解する。 ･ソーシャルエンジニアリングにより不正に情報が盗まれることを理解する。 ･著作権について理解する。 ･引用の仕方を理解する。	1
6月	8 情報技術の発展[p.20] 9 情報化と私たちの生活の変化[p.22] 10 よりよい情報社会へ[p.24]	･画像処理や電子商取引などの新しい情報技術について学習する。 ･人工知能やロボットなどの情報技術と生活の変化を理解する。 ･情報化による健康への影響などの問題について学習する。 ･サイバー犯罪などの問題について学習する。	2
7月	18 情報デザイン[p.48] 19 ユニバーサルデザイン[p.50] 20 情報デザインの流れ[p.52]	･情報デザインとは何か学習する。 ･情報デザインの方法である抽象化，可視化，構造化を理解する。 ･学校のWebサイトがどのような階層構造になっているか調べる。 ･情報デザインの方法を使って分かりやすい文書を作成する。 ･ユニバーサルデザインについて学習する。 ･ユーザインタフェースについて学習する。 ･情報デザインのプロセスを理解する。 ･情報デザインのプロセスを活用する方法を身につける。 ･デザイン思考に基づいた分析を理解する。	3
8月			
9月	表計算ソフトウェアの操作[p.152]	･表計算ソフトウェアの書式の設定や配置の変更など，基本的な操作を学習する。 ･表計算ソフトウェアでの数式の利用を学習する。 ･表計算ソフトウェアでの関数の利用を学習する。 ･ディレクトリやファイルの操作について学習する。	4
10月	表計算ソフトウェアの応用編	･関数計算を理解する。 ･複雑な表を作成できるようになる。	
11月	21 コンピュータとは何か[p.62] 22 ソフトウェアの仕組み[p.64] 23 演算の仕組みとコンピュータの限界[p.66]	･コンピュータの基本構成について理解する。 ･ハードウェアとソフトウェアについて理解する。 ･プログラムの動作の仕組みについて学習する。 ･コンピュータの演算の仕方について学習する。 ･コンピュータの処理のための基本的な回路について学習する。	5
12月 1月	60 データ分析の流れ[p.144]	･パワーポイント操作を理解する。 ･プレゼンテーション方法を理解する。 ･プレゼンテーションの流れ･手順を理解する。	6
2月	プレゼンテーションの発表	･プレゼンテーションの発表を通して、話し手と聞	
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	—	—	—	—	100	20	20
提出物･成果物（ノート、作品等）	20	10	80	24	—	—	34
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	—	—	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	特に問題解決と，その為のコンピュータの利用の手順を身に付けてほしい。 理論編は授業をよく聴き，配布するプリントをしっかりと纏めておくこと。 定期考査毎に配布するプリントを提出させテストとともに総合的に評価する。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
情報Ⅰ	日本語	1	神谷 卓敬

科目の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ，情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し，情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。
使用教科書	新編情報Ⅰ【情Ⅰ901】

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	1 情報とメディアの特性[p.6] 表現メディアの違いによるメリットとデメリット 2 問題解決の流れ[p.8] 3 発想法[p.10]	・情報の特性から，情報とは何か理解する。 ・さまざまなメディアの特性を理解する。 ・問題を発見・解決するための一連の流れを理解する。 ・問題の発見・解決に情報技術が活用できることを理解する。 ・問題解決の各場面で活用できる発想法を学習する。	
5月	4 情報モラル[p.12] 5 個人情報の流出[p.14] 6 傷つかない傷つけないために[p.16] 7 著作権[p.18]	・情報社会で生活するための情報モラルを理解する。 ・情報社会の安全を守るための，法規や制度および個人の責任について学習する。 ・個人情報とはどのようなものか理解する。 ・SNSを通して個人情報が流出・特定される仕組みを学習する。 ・SNS等の不適切な使い方による問題を理解する。 ・ソーシャルエンジニアリングにより不正に情報が盗まれることを理解する。 ・著作権について理解する。 ・引用の仕方を理解する。	1
6月	8 情報技術の発展[p.20] 9 情報化と私たちの生活の変化[p.22] 10 よりよい情報社会へ[p.24]	・画像処理や電子商取引などの新しい情報技術について学習する。 ・人工知能やロボットなどの情報技術と生活の変化を理解する。 ・情報化による健康への影響などの問題について学習する。 ・サイバー犯罪などの問題について学習する。	2
7月	18 情報デザイン[p.48] 19 ユニバーサルデザイン[p.50] 20 情報デザインの流れ[p.52]	・情報デザインとは何か学習する。 ・情報デザインの方法である抽象化，可視化，構造化を理解する。 ・学校のWebサイトがどのような階層構造になっているか調べる。 ・情報デザインの方法を使って分かりやすい文書を作成する。 ・ユニバーサルデザインについて学習する。 ・ユーザインタフェースについて学習する。 ・情報デザインのプロセスを理解する。 ・情報デザインのプロセスを活用する方法を身につける。 ・デザイン思考に基づいた分析を理解する。	3
8月			
9月	表計算ソフトウェアの操作[p.152]	・表計算ソフトウェアの書式の設定や配置の変更など，基本的な操作を学習する。 ・表計算ソフトウェアでの数式の利用を学習する。 ・表計算ソフトウェアでの関数の利用を学習する。 ・ディレクトリやファイルの操作について学習する。	4
10月	表計算ソフトウェアの応用編	・関数計算を理解する。 ・複雑な表を作成できるようになる。	
11月	21 コンピュータとは何か[p.62] 22 ソフトウェアの仕組み[p.64] 23 演算の仕組みとコンピュータの限界[p.66]	・コンピュータの基本構成について理解する。 ・ハードウェアとソフトウェアについて理解する。 ・プログラムの動作の仕組みについて学習する。 ・コンピュータの演算の仕方について学習する。 ・コンピュータの処理のための基本的な回路について学習する。	5
12月 1月	60 データ分析の流れ[p.144]	・パワーポイント操作を理解する。 ・プレゼンテーション方法を理解する。 ・プレゼンテーションの流れ・手順を理解する。	6
2月	プレゼンテーションの発表	・プレゼンテーションの発表を通して、話し手と聞	
3月			

学習評価

評価の観点 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	—	—	—	—	100	20	20
提出物・成果物 （ノート、作品等）	20	10	80	24	—	—	34
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	—	—	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	特に問題解決と，その為のコンピュータの利用の手順を身に付けてほしい。 理論編は授業をよく聴き，配布するプリントをしっかりと纏めておくこと。 定期考査毎に配布するプリントを提出させテストとともに総合的に評価する。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
総合的な探究の時間	総合･ドッグケア･パソコン･日本語	2	松井　大

科目の目標	①横断的･総合的な学習 創意工夫を生かした教育活動を行う。 人権理解、国際理解、情報、環境、福祉、健康などの学習活動。 ②地域や学校、生徒の実態、生徒の興味、関心を生かした教育活動。 地域の人々の協力も得つつ、地域の教材や学習環境の積極的などについて工夫する。 ③問題(課題)解決的学習、体験的学習(社会見学) 学び方やものの考え方を身につけ、自己の在り方生き方を考えることができるようにする。 ④全校一体の学習活動 全教師、全学年生徒が一体となり学習に取り組む。
使用教科書	高校生の進路ノート　ベーシック

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	人権学習 ネットワークマナー	･ネットワーク上の言葉使いや友達との接し方などを学ぶ ･個人情報･著作権･肖像権の大切さについて学ぶ	
5月			
6月			
7月			
8月			
9月	人権学習 盲導犬について知ろう	･目の不自由な方と盲導犬の関係性について学ぶ ･盲導犬の歴史、訓練、生活について学ぶ	1
10月			
11月			
12月			
1月	人権学習 亀山ボランティア活動	･ボランティア活動の大切さを学ぶ ･地域貢献の大切さを学ぶ	
2月			
3月			

学習評価

学習活動	観点	評価
		教科のように試験の成績等によって数値的に評価することはせず、学習の状況や成果を文章表記によって記録する。

履修にあたっての留意点	･知識を得ることにより、逆に差別をすることないように留意する。 ･自分の価値観を押しつけることがないように留意する。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
ソーシャルスキルトレーニング	総合･ドッグケア･パソコン	1	北森

科目の目標	言葉で考え、判断し、表現する言語能力および認知機能･感情統制機能の向上を図る学習活動を通じてソーシャルスキルを身につける。
使用教科書	

学習計画

月	学習内容	学習目標
4月	自立のためのチェックリスト、自己紹介	自分のソーシャルスキルの課題を知る
5月	エンカウンター、自己認知スキル	プラス思考、ストレス解消法･気分転換方法を知る
6月	コミュニケーションスキル	コミュニケーションスキルを身につける
7月	夏季休業の計画、スマホの使い方	夏季休業中の自己管理
8月	夏季休業	
9月	コミュニケーションスキルチェック、エンカウンター	自分の得意･苦手を知る
10月	スキル「話す」	話すスキルを身につける
11月	スキル「聞く」	聞くスキルを身につける
12月	スキル「会話」	会話スキルを身につける
1月	自己管理	日常生活の課題を解決する
2月	自己管理、人との上手な付き合い方	アサーショントレーニング
3月	1年間の自己評価	ソーシャルスキルの向上を実感する

講座の構成	･グループエンカウンターのエクササイズを多く行うことでリレーションの形成を図る。 ･リレーション形成の状況に応じ、SSTのターゲットスキルを柔軟に選択する。基本的にはコミュニケーションスキル、セルフコントロールスキルとすすめていく。 ･第1回と最終回に自己認知スキル、ソーシャルスキル尺度を用いて効果測定を行う。 ･各ワークの振り返りシートから生徒の状況を理解することに努め、生徒の実態に応じた柔軟な対応を行う。 ･SSTのモデリングは担当教員で行う。

学習評価	

履修にあたっての留意点	

科目名	対象コース	単位数	担当教員
言語文化	総合･ドッグケア･パソコン	2	藤瀧　恭輔

科目の目標	現代文(随筆･詩歌･小説)、古文(随筆･詩歌･物語･紀行)、漢文(漢詩･論語･史話)を学び、　　ものの見方や考え方を豊かにする
使用教科書	新編言語文化 （東京書籍）

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	学習ガイダンス		
5月	「さくらさくらさくら」「とんかつ」		1,2
6月			1,2
7月			1,2
8月			
9月	柳あをめる･雪の深さを		3
10月	徒然草	ものの見方、感じ方、考え方を読み取る	4
11月	徒然草	ものの見方、感じ方、考え方を読み取る	4
12月	漢文の基本･漢詩	漢文読解に慣れる	5
1月	古典の知識	古典読解に慣れる	6
2月	古典の知識	古典読解に慣れる	6
3月	学期末試験　学期末試験の返却　1年間のまとめ	1年間を振り返り、感想文等を書く	

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	—	—	50	15	50	10	25
提出物･成果物（ノート、作品等）	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	—	—	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	･現代文や古文、漢文と幅広く学習することを心がけてください。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
現代の国語	日本語	2	藤瀧　恭輔

科目の目標	社会人として必要な言語能力や知識を身につける。 国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成する。 え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨く。
使用教科書	新編現代の国語（東京書籍）

学習計画（レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。）

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	学習ガイダンス、漢字と語句の学習		
5月	「こそめスープ」「水の東西」	・筆者の考え方を読み取る。 評論（比較文章）の理解を深める。	1、2
6月			
7月			
8月	夏期休業課題	漢字や語句の復習をし、定着を図る。	
9月	「無彩の色」「「鍋洗いの日々」	・色についての筆者の価値観と主張を読み取る。 筆者の仕事に対する思いを読み取る。	3、4
10月			
11月			
12月	「りんごのほっぺ」「真の自立とは」	・戦時下の人々の状況と、一貫する筆者の思いを読み取る。 「自立」について自分の考えを持ち、ものの見方を広げる。	5、6
1月			
2月			
3月	単位認定試験	一年間の復習をし、理解を深める。	

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	—	—	50	15	50	10	25
提出物・成果物（ノート、作品等）	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	—	—	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	①正しい日本語を使う。 出物の締め切りは守る。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
政治･経済	総合･ドッグケア･パソコン	2	玉井　将博

科目の目標	社会についての見方、考え方を働かせ政治に関する諸課題について考察する。また、現代における日本の政治に関わる概念や理論などを理解するとともに、課題を意欲的に追求する。
使用教科書	東京書籍　政治･経済(東書　政経701)

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	○民主政治の基本原理	民主政治への道のりと現代の民主政治について理解する。	1
5月	○日本国憲法の基本原理	日本国憲法の特徴や、平和主義の意義と安全保障体制について理解する。	1
6月	○日本の政治機構	国会の権限や運営、司法権独立の必要性や裁判のしくみについて理解する。	2
7月	○現代政治の特質と課題	選挙の意義としくみについて理解する。 主権者である自分は、どのように政治参加していけばよいか考察する。	2
8月			
9月	○現代の資本主義経済	経済活動の特徴について、理解する。資本主義経済が主流になったのはなぜか考察する。	3
10月	○現代経済のしくみ	企業、国民所得、財政などの観点に着目する。現代経済の課題を考察する。	3
11月	○日本経済の発展と現状	戦後日本経済の発展や経済の現状について理解する。	4
12月	○福祉社会と日本経済の課題	日本の経済や社会が抱える課題の解決に向けて自分には何ができるか考察する。	4
1月	○国際政治のしくみ	国際社会の成立と主権国家、国際連合の役割について理解する。	5
2月	○複雑化する国際政治と日本	第2次世界大戦後の国際関係の展開と日本、また日本の役割について理解する。	5
3月	○世界経済の現状と課題	グローバル化する世界経済や諸問題について理解する。	6

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	―	―	50	15	50	10	25
提出物･成果物 (ノート、作品等)	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	授業には教科書･副教材･要点マスター政治･経済
	筆記用具を必ず持参してください。
	いま起こっている政治の現状や経済的な事象について興味関心を持つようにしてください。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
地理総合	総合･ドッグケア･パソコン	2	玉井　将博

科目の目標	社会的事象の地理的な見方･考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動 を通して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的 な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質･能力を育成する。
使用教科書	高等学校　新地理総合 （帝国書院）

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	地図でとらえる現代世界 国際理解と国際協力 P6～94	･地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。　･現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きについて理解している。　･世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。	1～3
5月			
6月			
7月			
8月			
9月			
10月	持続可能な地域づくりと私たち P96～227	･さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し，読み取り、まとめる地理的技能を身に付けている。　･生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解している。	4～7
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	―	―	50	15	50	10	25
提出物･成果物 （ノート、作品等）	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	教科書･レポート･筆記用具を必ず持参してください。 レポート忘れは、実費購入となります。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
地理総合	日本語	2	榊　順一郎

科目の目標	社会的事象の地理的な見方･考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動 を通して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的 な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質･能力を育成する。
使用教科書	高等学校　新地理総合 （帝国書院）

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	地図でとらえる現代世界 国際理解と国際協力 P6～94	･地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。　･現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きについて理解している。　･世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。	1～3
5月			
6月			
7月			
8月			
9月			
10月	持続可能な地域づくりと私たち P96～227	･さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し，読み取り、まとめる地理的技能を身に付けている。　･生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解している。	4～7
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	―	―	50	15	50	10	25
提出物･成果物 （ノート、作品等）	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	教科書･レポート･筆記用具を必ず持参してください。 レポート忘れは、実費購入となります。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
公共	日本語	2	玉井　將博

科目の目標	現代社会で求められる私たちの社会を私たちの力でつくりあげる主体的で積極的な「公共」への関わりを学びます。
使用教科書	東京書籍　公共（東書　公共701）

学習計画（レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。）

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	○公共的な空間をつくる私たち	○青年期と自己形成を理解する	1
5月	○公共的な空間をつくる私たち	○社会的な存在として人間の意義を学ぶ	1
6月	○公共的な空間における基本的原理	○功利主義と幸福の原理を学ぶ	1
7月	○公共的な空間における基本的原理	○近代政治の原理と民主主義を理解する	2
8月			
9月	○民主政治と私たち	○日本国憲法の基本原理を理解する	2
10月	○法の働きと私たち	○法や規範の意義について学ぶ	3
11月	○法の働きと私たち	○国民の司法参加について学ぶ	3
12月	○経済社会で生きる私たち	○現代の経済と市場について学ぶ	4
1月	○私たちの職業生活	○国際社会のルールとしくみを学ぶ	5
2月	○国際社会のなかで生きる私たち	○国際平和への課題を考える	5
3月	○持続可能な社会づくりに参画するために	○身近な地域の課題を考える	6

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	—	—	50	15	50	10	25
提出物・成果物（ノート、作品等）	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	—	—	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	授業には教科書・副教材・公共ワークシート
	筆記用具を必ず持参してください。
	いま起こっている社会的事象について興味関心を持つようにしてください。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
数学Ⅰ	総合･ドッグケア･パソコン	2	中塚信夫

科目の目標	数学的な考え方を理解し、基本的な事項を確実に習得する。
使用教科書	『新 数学Ⅰ』東京書籍

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	プレリュード	中学校内容の復習をし、基本的な代数学の性質を理解する。	
5月	プレリュード	中学校内容の復習をし、基本的な代数学の性質を理解する。	
6月	第1章　数と式 1節　文字と式 2節　実数	4月5月の内容を復習し、高等学校における代数学の計算に必要な知識を身に着ける。	1, 2
7月	第1章　数と式 3節　方程式と不等式	基本的な方程式の計算を復習し、不等式や2次方程式の応用などを計算できるようになる。	3, 4
8月			
9月	第2章　2次関数 1節　2次関数とそのグラフ	関数とはなにかを理解し、点を取ることで関数をグラフで表せるようになる。また、2次関数の式を平方完成し頂点や軸の値を求められるようになる。	5
10月	第2章　2次関数 2節　2次関数の値の変化	2次関数の軸を用いて最大値･最小値が求められるようになる。	6
11月	3章　三角比 1節　鋭角の三角比	三角比とは何かを理解し、正弦、余弦、正接の値を求められるようになる。また、三角比の相互関係を理解し計算できるようになる。	7
12月	3章　三角比 2節　三角比の応用	正弦定理や余弦定理を用いて三角形の辺や角、三角形の面積などを求められるようになる。	8
1月	5章　データの分析 1節　データの分析 度数分布、代表値、四分位数	データの集まりから分布をまとめ、各種代表値を求められるようになる。	9
2月	5章　データの分析 1節　データの分析 分散、標準偏差、相関係数	2つのデータの集まりからそれぞれのデータの散らばり具合や相関を調べられるようになる。	
3月	単位認定試験		

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	―	―	50	15	50	10	25
提出物･成果物（ノート、作品等）	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	プリント学習を予定していますが、教科書や副教材も使用しますので、毎回教科書と副教材を持参してください。 また、年間の学習計画は予定であり、学習時期や内容を変更する場合があります。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
数学Ⅰ	日本語	2	中塚信夫

科目の目標	数学的な考え方を理解し、基本的な事項を確実に習得する。
使用教科書	『新 数学Ⅰ』東京書籍

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	プレリュード	中学校内容の復習をし、基本的な代数学の性質を理解する。	
5月			
6月			
7月			
8月			
9月	第1章　数と式 1節　文字と式 2節　実数	4月5月の内容を復習し、高等学校における代数学の計算に必要な知識を身に着ける。	
10月			1.2
11月	第1章　数と式 3節　方程式と不等式	基本的な方程式の計算を復習し、不等式や2次方程式の応用などを計算できるようになる。	
12月			
1月			3.4
2月	単位認定試験		
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	―	―	50	15	50	10	25
提出物・成果物 (ノート、作品等)	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	プリント学習を予定していますが、教科書や副教材も使用しますので、毎回教科書と副教材を持参してください。 また、年間の学習計画は予定であり、学習時期や内容を変更する場合があります。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
生物基礎	総合･ドッグケア･パソコン	2	朝熊　天章
科目の目標	･日常生活や社会との関連を図りながら，生物や生物現象について理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ･観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。 ･生物や生物現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度と，生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度を養う。		
使用教科書	東京書籍「改訂新編生物基礎」(生基002-902)		

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	1編　生物の特徴 1章　生き物の多様性と共通性	･地球上に多様な種がみられるのは，なぜかを考える。 ･生物は多様であるが，共通性があるのかを知る。 ･生物の細胞は，どのような特徴をもっているのかを知る。	No．1
5月	2章　生物とエネルギー	･生命活動に必要なエネルギーは，どのようにして得られるのかを知る。 ･呼吸や光合成では，どのようにエネルギーが利用されているかを考える。 ･酵素とはどのような物質なのかを知る。	
6月	2編　遺伝子とそのはたらき 1章　遺伝情報とDNA	･生物の形質は，何によって決まるのを知る。 ･DNAは，どのような構造をしているのかを知る。 ･DNAはどのようにして増えるのかを知る。	No．2
7月			
8月			
9月	2章　遺伝情報とタンパク質の合成	･タンパク質にはどのような役割があるのを考える。 ･タンパク質は，DNAからどのようにしてつくられるのを知る。 ･異なる種類の細胞ではたらいている遺伝子は，すべて同じなのを考える。	No．2
10月	3編　ヒトの体の調節 1章ヒトの体を調節するしくみ	･さまざまな環境に対応するために，ヒトの体にはどのような機能が備わっているのかを考え、知る。 ･神経系は，体内環境の維持(いじ)にどのようにかかわっているのかを考える。 ･内分泌系による情報伝達は，体内環境の維持にどのようにかかわっているのかを知る。 ･血糖濃度はどのようなしくみで調節されているのかを知る。	No．3
11月	2章　免疫のはたらき	･ヒトの体はどのようなしくみによって病原体から守られているのかを知る。 ･免疫のしくみを利用することで，どのようにして病気を予防できるのを考える。 ･免疫のしくみが過敏に反応したり，機能しなくなったりすると，ヒトの体にはどのような影響が出るのかを知る。	No．4
12月	4編　生物の多様性と生態系 1章　生殖と遷移	･植生によって環境はどのように変わるのかを考える。 ･時間の経過とともに，植生はどのように変化するのか考える。 ･遷移の結果，世界にはどのような植生が成立しているのを知る。	No．5
1月			
2月	2章　生態系と生物の多様性	･多様な生物と環境にはどのような関係がみられるのかを考える。 ･捕食･被食の関係性と生物の多様性とはどのように関連しているのを考える。 ･人間活動は，生態系にどのような影響を及ぼしているのかを考える。 ･なぜ，多様な生物を保全することが大切なのかを考える。	No．6
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	—	—	50	15	50	10	25
提出物･成果物 (ノート、作品等)	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	—	—	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	「生物の特徴」「遺伝子とそのはたらき」「ヒトの体の調節」「生物の多様性と生態系」という4つの分野に大きく分けて学習する中で，生物のもたらす豊かさや，生命活動の複雑さ，目の前の自然の成り立ちなどについて，さまざまなところに好奇心をもって学習を進める。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
科学と人間生活	日本語コース	2	朝熊　天章

科目の目標	・自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。 ・観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。 ・自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。
使用教科書	東京書籍「科学と人間生活」(科人002-901)

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	1編　生命の科学 1章　微生物とその利用	・微生物には，どのような種類があり，それぞれどのような特徴があるのを知る。 ・微生物は，生態系のなかでどのような役割があり，炭素の循環にどのようにかかわっているのを知る。 ・微生物は，生態系のなかの要素とどのようにかかわっているのかを知る。 ・水中の微生物は，分解者としてどのような役割を果たしているのを考える。 ・微生物の存在や特徴はどのようにして解明されてきたのかを知る。 ・発酵食品にはどのようなものがあり，微生物がどのようにかかわっているのかを調べ，理解する。 ・酵母と乳酸菌による発酵とは，どのような反応なのかを調べ、理解する。 ・微生物は，医薬品の製造にどのように役立っているのかを知る。	No. 1
5月 6月	2章　ヒトの生命現象	・眼から入った情報は，どのように脳へと伝わり，視覚が生じるのかを知る。 ・眼には，どのようなはたらきがあるのか。また，太陽の光は生活にどのようにかかわっているのかを知る。 ・食物として取り入れた炭水化物は，体内でどのように利用されているのかを知る。 ・血糖濃度を一定の範囲内に維持するために，体内にはどのようなしくみがあるのかを知る。 ・私たちは，どのようにして病原体から体を守っているのかを知る。 ・予防接種はどのような方法で感染症を予防するのか。また，アレルギーとはどのようなものを知る。 ・遺伝子の本体であるDNAとは，どのようなものなのかを知る。 ・ヒトの体内では，どのようにしてタンパク質がつくれているのかを知る。 ・ヒトの体内には，どのようなタンパク質があり，それぞれどのようなはたらきをもつのかを知る。	No. 2
7月	2編　物質の科学 1章　材料とその再利用	・ガラスなどの資源を再利用するためには，どのような方法があるのかを知る。 ・金属と非金属との違いは，金属の原子の構造とどのように関係しているのかを知る。 ・異なる種類の金属を区別するには，どのような性質を調べればよいのかを知る。 ・金属は，鉱石からどのようにして取り出され，利用されているのかを知る。 ・金属の再生利用(リサイクル)では，どのような方法が有効かを考える。	No. 3
8月			
9月	2編　物質の科学 1章　材料とその再利用	・プラスチックとはどのような物質で，どのような種類や性質の違いがあるのかを知る。 ・高分子化合物のでき方を知る。 ・プラスチックを再生利用(リサイクル)するには，どのような方法があるのかを調べる。	No. 3
10月	2章　衣料と食品	・日常生活のなかで，使われている繊維には，どのような種類があるのか調べる。 ・天然繊維には，どのような種類があるのかを調べる。 ・合成繊維には，種類によってどのような特徴があるのかを知る。 ・体に必要な栄養素には，どのようなはたらきをもった物質があるのかを知る。 ・脂質(油脂)とは，どのような物質なのかを知る。 ・炭水化物とは，どのような物質なのかを知る。 ・タンパク質とは，どのような物質なのかを知る。	No. 3
11月 12月	3編　光や熱の科学 1章　光の性質とその利用	・光は，物質の境界面でどのように進むのかを知る。 ・光と波の性質には，どのような関係があるのかを知る。 ・水面の波と波が出合うと，どのような現象が見られるのか考える。 ・光のスペクトルは，光源によって，どのような違いが見られるのかを知る。 ・私たちは，どのように色を認識しているのか。また，物体の色は，何によって決まるのかを知る。 ・電磁波とは，どのようなものなのかを知る。 ・電磁波の利用について知る。	No. 4
1月	2章　熱の性質とその利用	・物質の温度と原子や分子の動きには，どのような関係があるのかを知る。 ・温度の異なる物体どうしを接触させたとき，どのようなことが起こるのかを知る。 ・熱伝導，対流，放射は，それぞれどのようなしくみで熱が伝わるのかを知る。 ・エネルギーについて知る。 ・エネルギーの有効利用についてどのような事例があるか調べる。	No. 5
2月 3月	4編　宇宙や地球の科学 1章　太陽と地球 2章　自然景観と自然災害	・太陽や月の日周運動について理解を深める。 ・潮位の変化について知る。 ・地球が受け取る太陽の放射エネルギーは，大気や気候にどのような影響を与えているのかを知る。 ・緯度ごとの熱のつり合いの異なりが，大気や海洋にどのような影響を与えるのかを知る。 ・四季の変化や地球規模の気象は，私たちの生活にどのように関係しているのかを知る。 ・地球規模の地形は，どのようにしてできるのかを知る。 ・断層運動がつくる地形について知る。 ・火山活動につて知る。 ・太陽エネルギーと地形や景観の関係について知る。 ・自然災害と自然現象の違いについて知る。	No. 6

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動，発言，態度）	—	—	50	15	50	10	25
提出物・成果物（ノート，作品等）	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験（実技テスト，レポート等）	80	40	20	6	—	—	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	1　日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、その法則性について考える態度をもつこと。 2　疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。 3　学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
体育	総合･ドッグケア･パソコン･日本語	2	北山･郷司

科目の目標	運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようになるとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正･協力･責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を養う。
使用教科書	現代高等保健体育 （大修館書店)701

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月 5月 6月 7月	･規律訓練 ･体力テスト ･陸上競技 ･バレーボール	･集団行動の基本の集合、整頓、列の増減、方向転換を円滑に行えるようになる。 ･自己の体力を認識し、レベルの推移を理解する。 ･測定では集団行動の学習をいかし、円滑に授業の進行ができるよう全員で協力する。 ･攻撃の組み立てを楽しむ。個々の特徴を生かしたチームづくりに挑戦する。ローテーション方式に慣れて、それぞれの攻守の役割を理解したゲームに発展させる	1，2
8月			
9月 10月 11月 12月	･ソフトボール ･バドミントン ･バスケットボール	･キャッチボール、トスバッティングがスムーズにできる。 ･フライトの特性を理解する。サービスからの返球。攻めの局面と守りの局面を理解し、場面に応じた返球の仕方を工夫する。 ･正規のルールを理解し、チームとして組織的な攻撃･防御が展開できるようにする。	
1月 2月 3月	･バスケットボール ･卓球	･正規のルールを理解し、チームとして組織的な攻撃･防御が展開できるようにする。 ･シングルス、ダブルスのゲームを行う。審判法を理解する。	

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	50	25	100	30	100	20	75
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	50	25	—	—	—	—	25
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	怪我をしないように、しっかりと体をほぐし、危険行為がないよう、注意をはかる。 実際に練習を行ってみて「うまくいったこと」「うまくいかなかったこと」を考慮し、対戦相手に応じた作戦を立案する。 ルール(方針)を的確に理解する。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
保健	総合･ドッグケア･パソコン	1	長田　雪

科目の目標	肉体的･精神的に大人に近づいてくる高校生の時期から、その段階に応じた健康課題について理解を深める。人々が健康に生きていくためには、周囲の自然環境や食品に関する健康問題について学習し、理解を深める。
使用教科書	701 大修館 「現代高等保健体育」

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	ライフステージと健康 思春期と健康	ライフステージと健康の関連について説明できる。 思春期における体の変化を説明できる。	1
5月	性意識と性行動の選択 妊娠･出産と健康	性意識の男女差について説明できる。 妊娠･出産の過程を説明できる。	
6月	避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康	人工妊娠中絶が及ぼす影響を説明できる。 心身の発達と結婚生活のついて説明できる。	
7月	中高年期と健康 働くことと健康	加齢にともなう心身の変化について説明できる。 働くことの意義について説明できる。	
8月	夏季休業		
9月	労働災害と健康 健康的な職業生活	労働災害の種類と健康について説明できる。 余暇の必要性といぎについて説明できる。	2
10月	大気汚染と健康 水質汚濁、土壌汚染と健康	大気汚染の原因と影響について説明できる。 水質汚濁･土壌汚染について説明できる。	
11月	環境と健康にかかわる対策 ごみの処理と上下水道の整備	産業廃棄物による健康被害について説明できる。 ごみの処理の現状や課題について説明できる。	
12月	食品の安全性 食品衛生にかかわる活動	食品の安全性と健康の関りについて説明できる。 食品の安全性を確保する役割を説明できる。	
1月	保健サービスとその活用 医療サービスとその活用	保健行政の役割について説明できる。 医療機関の役割について説明できる。	3
2月	医薬品の制度とその活用 さまざまな健康活動や社会的対策	医薬品の正しい説明法について説明できる。 行政による社会的対策について説明できる。	
3月	健康に関する環境づくりと社会参加	健康のための環境づくりについて説明できる。	

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	―	―	50	15	50	10	25
提出物･成果物 (ノート、作品等)	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	教科書の内容はもちろんのこと、「現代高等保健体育ノート」もあわせて授業をすすめてきます。必ず、授業時に持参してください。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
保健	日本語	1	長田　雪

科目の目標	現代社会は生活習が豊かになった一方で、生活習慣病や薬物乱用、精神疾患など健康に関わる多様な問題が多様に発生してきた。時代の流れの中で、健康のとらえ方や社会に求められていることなど現代社会で問題視されている健康の考え方について学習する。
使用教科書	901大修館　「現代高等保健体育」

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	健康の考え方と成り立ち 私たちの健康のすがた	健康の考え方について例をあげて説明できる。 健康水準の変化とその背景について説明できる。	1
5月	生活習慣病の予防と回復 がんの原因と予防	生活習慣病の種類と要因を説明できる。 がんの種類や原因について説明できる。	
6月	がんの治療と回復 運動と健康 食事と健康	がんのおもな治療について説明できる。 健康と運動の関係について説明できる。 健康と食事の関係について説明できる。	
7月	休養・睡眠と健康 喫煙と健康	健康と休養の関係を説明できる。 喫煙やまわりに起こる害について説明できる。	
8月	夏季休業		
9月	飲酒と健康 薬物乱用と健康 精神疾患の特徴	飲酒と健康への影響を説明できる。 薬物乱用が及ぼす影響について説明できる。 精神疾患の例をあげて説明できる。	2
10月	精神疾患の予防 精神疾患からの回復 現代の感染症	精神疾患の予防方法について説明できる。 精神疾患の治療について説明できる。 感染症とは何か説明できる。	
11月	感染症の予防 性感染症・エイズとその予防	感染の3原則を説明できる。 性感染症・エイズなどについて説明できる。	3
12月	健康に関する意思決定・行動選択 健康に関する環境づくり	意思決定・行動選択を説明できる。 社会環境の健康影響について説明できる。	
1月	事故の現状と発生原因 安全な社会の形成	事故と被害の実態について説明できる。 安全のための行動について説明できる。	
2月	交通における安全 応急手当の意義とその基本	交通事故における責任について説明できる。 応急手当の意義について説明できる。	
3月	日常的な応急手当 心肺蘇生法	日常的なけがや熱中症について説明できる。 心肺祖施法をおこなうことができる。	

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	—	—	50	15	50	10	25
提出物・成果物 （ノート、作品等）	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	—	—	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	教科書の内容はもちろんのこと、「現代高等保健体育ノート」もあわせて授業をすすめてきます。必ず、授業時に持参してください。

科目名	対象コース	単位数	担当
書道Ⅰ	日本語	4	大泉

科目の目標	書を愛好する心情を身につけるとともに、感性を豊かにし、表現と鑑賞の基礎的な能力を身につ
使用教科書	『書道Ⅰ』東京書籍

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標
4月 5月	九成宮醴泉銘　「風景」P20	楷書の古典を臨書する意義について理解する。
6月 7月	蘭亭序　「天朗氣清」P41	行書の古典を臨書する意義について理解する。
8月		
9月	隷書　「世紀」P50	隷書が成立する過程や隷書の特徴について理解する。
10月 11月	平仮名の単体　「い」～「う」P66	仮名の成立と変遷について理解する。
12月 1月	平仮名の単体　「あ」～「ん」P67	仮名の成立と変遷について理解する。
2月	臨書・鑑賞　「蓬莱切」P74	平安時代の代表的な古筆を臨書する意義について理解する。
3月		

学習評価

評価の観点 / 評価方法	関心・意欲・態度	思考・判断	表現・処理・技能	知識・理解
定期試験	―	30	30	40
観察(行動・発言)等	30	―	―	―
ノート・作品・課題等	5	5	5	5
合計	35	35	35	45

履修にあたっての留意点	学習した知識を、日常生活にいかせるようにしてください。

教員
亜弓
ける。

レポートNo.
1
2
3
4
5
6

科目名	対象コース	単位数	担当教員
論理表現	総合･ドッグケア･パソコン･日本語	2	山田　香奈子

科目の目標	外国語を通じて、言語や文化の違いに対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的なコミュニケーション能力を高める。
使用教科書	『New Favorite English Logic and Expression』(東京書籍)論Ⅰ002-901

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	Lesson1 The first Meal Lesson2 Getting Lost	食事のシーンで褒める･勧める･断ることができる。 道順を提案･依頼･説明することができる。	1
5月	Lesson3 Introducing Someone Lesson4 Feeling sick	身近な人を紹介し、注意をひくことができる。 体調を伝える･訪ねることができる。	2
6月	Lesson5 Shopping Lesson6 Please I'd Like to Visit	買い物シーンでの表現を学ぶ。 希望を述べる表現を学ぶ。	3
7月	期末考査		
8月			
9月	Lesson7 Invited to an Event Lesson8 Talking to the School Counselor	イベントに誘う場面での表現を学ぶ。 カウンセラーとの相談場面での表現を学ぶ。	4
10月	Lesson9 Introducing Our Favorite Things Lesson10 I'm Late for a Meeting	お気に入りを紹介する表現を学ぶ。 待ち合わせに遅刻した場面での表現を学ぶ。	5
11月	Lesson11 Discussions at Home Lesson12 Submitting an Article to an English Newspaper	家庭でディスカッションをする場面での表現を学ぶ。 要望や意見を述べる表現を学ぶ。	6
12月	期末考査		
1月	Unit2以降	文法用法の確認。これまでの復習。 単位認定試験に向けての対策をする	
2月	総復習	文法用法の確認。これまでの復習。 単位認定試験に向けての対策をする	
3月	総復習	1年の総復習をする	

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	—	—	50	15	50	10	25
提出物･成果物 (ノート、作品等)	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	—	—	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	レポートは、教科書を参考にして出題しており、試験はレポートや授業プリントから主に出題します。 教科書、筆記用具を必ず持参してください。提出物に関しては、提出期限内にきちんと提出できているか、しっかりとすべて丁寧に書かれているか、なども評価いたします。提出物･成果物に関しては、レポート以外のプリント等も必要に応じて実施いたします。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
家庭基礎	総合･ドッグケア･パソコン	2	廣瀬　操

科目の目標	人間の健全な発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族･家庭の意義、家族･家庭と社会との関わりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。
使用教科書	家庭基礎　自立･共生･創造(東京書籍　家基901) 『家庭基礎　ライブビュー　資料＋食品成分表』東京書籍

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	第1章　生涯を見通す	自立した生活を営むために，生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。	1
5月	第2章　人生をつくる	生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように，さまざまな生き方について理解する。	1
6月	第3章　子どもと共に育つ	子どもの発達に応じて適切に関われるようになるために，子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。	2
7月	第4章　超高齢社会を共に生きる	高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。	2
8月		。	
9月	第5章　共に生き，共に支える	誰もが生涯を通して自分の力を生かし，必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて，家族･家庭生活を支える福祉について理解する。	3
10月	第6章　食生活をつくる	よりよい食習慣を身につけ，生涯を健康に過ごすために，食生活の課題や食事の意義，食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。	3
11月	第7章　衣生活をつくる	用途に合った着装を実践できる力を身につけるために，社会生活を営むうえでの被服の役割を理解する。	3
12月	第8章　住生活をつくる	生涯を見通した住生活について考え，将来に向けて自立するために，私たちの毎日の生活を支え生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。	4
1月	第9章　経済生活を営む	自立した責任ある消費者として，よりよい意思決定ができるよう，現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。	4
2月	第10章　持続可能な生活を営む	持続可能な社会を構築するために，持続可能な消費や生活について理解し，ライフスタイルを工夫する。	4
3月	第11章　これからの生活を創造する	人生の目標を達成し，自分らしい生活が実現できるよう，各ライフステージの課題や生活資源，リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようになる。	4

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	—	—	50	15	50	10	25
提出物･成果物 (ノート、作品等)	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	—	—	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	授業への積極的な取り組み(教科書や資料集を必ず用意する)、調理実習時にはエプロン･三角巾を用意し、安全と清潔を心がけ、協力して調理できるよう心がける。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
家庭基礎	日本語	2	和田　欣子

科目の目標	人間の健全な発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族･家庭の意義、家族･家庭と社会との関わりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。
使用教科書	家庭基礎　自立･共生･創造(東京書籍　家基901) 『家庭基礎　ライブビュー　資料＋食品成分表』東京書籍

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	第1章　生涯を見通す	自立した生活を営むために，生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。	1
5月	第2章　人生をつくる	生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように，さまざまな生き方について理解する。	1
6月	第3章　子どもと共に育つ	子どもの発達に応じて適切に関われるようになるために，子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。	2
7月	第4章　超高齢社会を共に生きる	高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。	2
8月		。	
9月	第5章　共に生き，共に支える	誰もが生涯を通して自分の力を生かし，必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて，家族･家庭生活を支える福祉について理解する。	3
10月	第6章　食生活をつくる	よりよい食習慣を身につけ，生涯を健康に過ごすために，食生活の課題や食事の意義，食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。	3
11月	第7章　衣生活をつくる	用途に合った着装を実践できる力を身につけるために，社会生活を営むうえでの被服の役割を理解する。	3
12月	第8章　住生活をつくる	生涯を見通した住生活について考え，将来に向けて自立するために，私たちの毎日の生活を支え生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。	4
1月	第9章　経済生活を営む	自立した責任ある消費者として，よりよい意思決定ができるよう，現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。	4
2月	第10章　持続可能な生活を営む	持続可能な社会を構築するために，持続可能な消費や生活について理解し，ライフスタイルを工夫する。	4
3月	第11章　これからの生活を創造する	人生の目標を達成し，自分らしい生活が実現できるよう，各ライフステージの課題や生活資源，リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようになる。	4

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	—	—	50	15	50	10	25
提出物･成果物 (ノート、作品等)	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	—	—	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	授業への積極的な取り組み(教科書や資料集を必ず用意する)、調理実習時にはエプロン･三角巾を用意し、安全と清潔を心がけ、協力して調理できるよう心がける。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
総合的な探究の時間	総合･ドッグケア･パソコン･日本語	1	松井　大

科目の目標	人権学習を基本とした横断的･総合的な学習を行い、自己の在り方生き方を考えながら、課題を解決していくための脂質･能力を育成する。 探究に主体的･協働的に取り組み、自他を認め、お互いの良さを生かしながら、より良い社会を実現しようとする態度を養う。
使用教科書	高校生の進路ノート　スタンダード

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
1学期	修学旅行を踏まえた 地域の歴史、文化、平和学習	各修学旅行先にて、その地域ごとにある文化や歴史などを知ることで、目的意識をより高く持って旅行日を迎えさせることを目標とする。	
2学期	障がい者の人権に係わる問題	ユニバーサルデザインのまちづくりを土台に障がいのある方の人権を考え、個人として、また社会の中での在り方に焦点をあて、それぞれとして考えを持たせる。	1
3学期	性的マイノリティの人権に係わる問題	･性の在り方は多様であることを認識する。 ･性の多様性に係わる基本的な知識を得る。 ･自分の性の在り方を見つめ直すことで、性的指向や性自認に係わる問題を事故の課題として受けとめる。	

学習評価

観点	評価
○人権課題に関する知識･技能 ○人権課題に関する思考･判断･表現 ○人権課題に関する関心･意欲･態度	教科のように試験の成績等によって数値的に評価することはせず、学習の状況や成果を文章表記によって記録する。

履修にあたっての留意点	･知識を得ることにより、逆に差別をすることないように留意する。 ･自分の価値観を押しつけることがないように留意する。

科目名	対象コース	単位数	担当
インターンシップ	総合･ドッグケア･パソコン	2	長田

科目の目標	(1)地域産業を知ることで、「望ましい職業観･勤労観」に加え、特に「社会貢献」への意欲を図る。 (2)実社会における社会的な知識･技術を学ぶ(働く意味を考える機会とする)。 (3)様々な世代との出会いにより、コミュニケーション力の向上と社会性を身につけ、自尊感図る。 (4)「本気･本物の大人」との出会い等を通じ、「なりたい自分･あるべき自分」を探求し、目標習する態度を身につけた「自立した学習者」の育成を図る。
使用教科書	教科書は使用せず

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標
4月	・就労体験先の職種を何にするか決定する	・どんな職業があるのかを知る ・自己分析に努める
5月	・就労体験先企業職種を決定。	・就労体験先の職種を理解する
6月	・挨拶、話し方、アポイントの取り方を学ぶ ・自己紹介カード作成	・社会に通用する挨拶、話し方、アポイントの取り方を知り、身につける
7月	第１弾 ・実習先へ打合せに行く ・必要書類の作成 ・実習開始	・実習にあたり、事前準備をする ・社会性を身につける ・コミュニケーション能力高める
8月	・実習開始	・社会性を身につける ・コミュニケーション能力高める
9月	・実習内容をまとめ	・表現力を身につける
10月	・発表	・それぞれが体験したことを発表を通して、 ①コミュニケーション能力を高める ②全員で共有することで、疑似体験に努め、それぞれの職業の理解に努める
11月		
12月	第２弾 ・実習先へ打合せに行く ・必要書類の作成 ・実習開始	・実習にあたり、事前準備をする ・社会性を身につける ・コミュニケーション能力高める
1月	・実習開始	・社会性を身につける ・コミュニケーション能力高める
2月	・実習内容をまとめ	・表現力を身につける
3月	・発表	・それぞれが体験したことを発表を通して、 ①コミュニケーション能力を高める ②全員で共有することで、疑似体験に努め、それぞれの職業の理解に努める

学習評価

観点	評価
・基本的な姿勢や態度 ・表情や話し方などのコミュニケーション能力 ・論理的思考に基づいた発言が出来ているか	

履修にあたっての留意点	・就労時間は、1日6時間以上（基本としては、就労体験先の就労時間に合わせる） ・就労体験期間は、夏季或いは冬季の2週間の内の10日 ・賠償責任保険、傷害保険に加入 ・逸脱する行為がある場合は、その時点で就労体験を中止し、体験を継続することが出来な

教員
雪
・態度の育成 感情の向上を 的を持って学

レポートNo.

科目名	対象コース	単位数	担当教員
論理国語	総合･ドッグケア･パソコン	4	西山

科目の目標	①言葉による見方･考え方を働かせ、国語で的確に理解し効率的に表現する資質･能力を育成する。 ②論理的思考力や伝え合う力を育み、実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。 ③教材本文とコラム･付録とを有機的に関連させ、多様な学習に対応できるようにする。
使用教科書	新編論理国語(東京書籍)

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	「対話とは何か」	対話についての筆者の考えを捉え、日常のこきゅニケーションの在り方を振り返ろう。	1
5月	「少女たちの『ひろしま』」	文章の構成や内容を的確に捉えながら読んで、論じられている事柄について考えよう。	2
6月	「学ぶことと人間の知恵」	人間と知性を巡る複数の評論を読んで、自分の考えを深めよう。	3
7月	「思考の肺活量」	表現に注意して評論を読み、提示された問題を的確に把握しよう。	4
8月	「弱肉強食は自然の摂理か」	学問的な見地から書かれた評論を読んで、ものの見方を広げよう。	5
9月	「はじめに『言葉』がある」	さまざまな観点から書かれた働く人の文章を読んで、働くことについて考えを深めよう。	6
10月	「最初のペンギン」	論理展開に注意して評論を読み、扱われてる問題を的確に捉えよう。	7
11月	「カフェの開店準備」	体験に基づく文章を読み、表現に注意して筆者の考えを捉えよう。	8
12月	「ロボットが隣人になるとき」「言葉は『ものの名前』ではない」	科学や哲学の見地から書かれた評論を読んで、人間について考えを深めよう。評論を読んで的確に理解し、論じられている物事への認識を深めよう.	9,10
1月	「もう一つの知性」「未来のありか」	対比に注意して評論を読み、筆者の主張を的確に捉えよう。具体例と抽象的な説明に着目して、評論の内容を的確に読み取ろう。	11,12
2月	単位認定試験		
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	—	—	50	15	50	10	25
提出物･成果物 (ノート、作品等)	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	—	—	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	･レポートは教科書から出題します。 論理思考力を鍛えて、実社会に必要な力を身につけてください。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
国語表現	総合･ドッグケア･パソコン	4	梶原

科目の目標	･志望動機や小論文を書く力を身につける。 得力のある根拠を書けるようにする。 ･説
使用教科書	国語表現(東京書籍)

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	分かりやすく説明しよう	情報を整理して伝達する基本を学ぶ	1～4
5月			
6月			
7月	自分の進路を考えよう	各自の進路実現のための応募書類を作成	
8月			
9月	「自分」を表現しよう	自分の魅力を伝える表現方法を学ぶ	5、6
10月	論理的な文章を書こう	小論文(根拠と主張)が書けるようにする	7～9
11月			
12月	説得力のある提案をしよう	プレゼンテーションの技法を学ぶ	10
1月	「問い」を考えよう、表現を楽しもう	電話のかけ方、メールの書き方、手紙の書き方、レトリック	11、12
2月	単位認定試験		
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	―	―	50	15	50	10	25
提出物･成果物 (ノート、作品等)	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	･自分の主張を根拠とともに書けるよう、繰り返し「書く」練習をする。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
言語文化	日本語	2	藤瀧

科目の目標	現代文(随筆･詩歌･小説)、古文(随筆･詩歌･物語･紀行)、漢文(漢詩･論語･史話)を学び、　　ものの見方や考え方を豊かにする
使用教科書	新編言語文化 （東京書籍）

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	さくらさくら(随筆)	日本独特の桜に対する感性について理解する	1
5月	柳あをめる･雪の深さを	独自の特徴と表現効果を理解する	2
6月	羅生門	小説の世界観を読み取る	3
7月			
8月			
9月	羅生門	小説の世界観を読み取る	3
10月	徒然草	ものの見方、感じ方、考え方を読み取る	4
11月	徒然草	ものの見方、感じ方、考え方を読み取る	4
12月	万葉集、古今和歌集、　新古今和歌集	ものの見方、感じ方、考え方を読み取る	5
1月	漢文の基本	漢文読解に慣れる	6
2月	単位認定試験		
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	—	—	50	15	50	10	25
提出物･成果物（ノート、作品等）	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	—	—	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	･現代文や古文、漢文と幅広く学習することを心がけてください。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
論理国語	日本語	4	藤瀧

科目の目標	①言葉による見方・考え方を働かせ、国語で的確に理解し効率的に表現する資質・能力を育成する。 ②論理的思考力や伝え合う力を育み、実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。 ③教材本文とコラム・付録とを有機的に関連させ、多様な学習に対応できるようにする。
使用教科書	新編論理国語（東京書籍）

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	「対話とは何か」	対話についての筆者の考えを捉え、日常のこきゅニケーションの在り方を振り返ろう。	1,2
5月	「対話とは何か」	対話についての筆者の考えを捉え、日常のこきゅニケーションの在り方を振り返ろう。	1,2
6月	世界をつくり替えるために	文章の構成や内容を的確に捉えながら読んで、論じられている事柄について考えよう。	3
8月	「少女たちの『ひろしま』」	文章の構成や内容を的確に捉えながら読んで、論じられている事柄について考えよう。	4
	「『ふしぎ』ということ」	文章の構成や内容を的確に捉えながら読んで、論じられている事柄について考えよう。	5,6
	「『ふしぎ』ということ」	文章の構成や内容を的確に捉えながら読んで、論じられている事柄について考えよう。	5,6
9月	「学ぶことと人間の知恵」	論理展開に注意して評論を読み、扱われてる問題を的確に捉えよう。	7,8
10月	「学ぶことと人間の知恵」	論理展開に注意して評論を読み、扱われてる問題を的確に捉えよう。	7,8
11月	「はじめに『言葉』がある」	さまざまな観点から書かれた働く人の文章を読んで、働くことについて考えを深めよう。	9
12月	「カフェの開店準備」	体験に基づく文章を読み、表現に注意して筆者の考えを捉えよう。	10,11
	「カフェの開店準備」	体験に基づく文章を読み、表現に注意して筆者の考えを捉えよう。	10,11
1月	「科学的『発見』とは」	具体例と抽象的な説明に着目して、評論の内容を的確に読み取ろう。	12

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	—	—	50	15	50	10	25
提出物・成果物（ノート、作品等）	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	—	—	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	・レポートは教科書から出題します。 論理思考力を鍛えて、実社会に必要な力を身につけてください。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
歴史総合	総合･ドッグケア･パソコン 日本語	2	榊　順一郎

科目の目標	○日本のことを踏まえた上で、世界と関わり世界的視野から見据える能力を身につける。 ○近代化、大衆化、グローバル化という三つの歴史の流れを理解する。 ○現代的な諸課題を歴史的に考察する。
使用教科書	東京書籍　新選　歴史総合

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	ポートNo.
4月	歴史と私たち	日本と世界の歴史とはつながっていることを理解する	1
5月	歴史の特質と資料	資料に基づいて歴史は記述されていることを理解する	1
6月	市民革命と近代社会	市民革命は社会の仕組みを生み出したのかについて理解する	2
7月	明治維新と東アジアの国際関係	明治維新はどのような国際環境の中で起き日本の社会を変えたのか理解する	2
8月			
9月	近代化と現代的な諸課題	現代的な諸課題について考察し、近代化の歴史を理解する	3
10月	経済危機と第二次世界大戦	経済危機の背景と影響、政治体制の変化に着目する。	4
11月	国際秩序の変化や大衆化と諸課題	国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する	4
12月	グローバル化への問い	グローバル化に伴う生活や社会の変容について多面的、多角的に考察する	5
1月	冷戦と世界経済	冷戦が各国経済に及ぼした影響また冷戦の拡大と第三勢力の台頭を理解する	5
2月	世界秩序の変容と日本	冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する	6
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	—	—	50	15	50	10	25
提出物･成果物 （ノート、作品等）	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	—	—	46
合計	100	50	100	30	100	20	##

履修にあたっての留意点	教科書、ワークノート、筆記用ノートを忘れないようにしてください。 歴史に興味をもち、この歴史総合の教科書を読みながら楽しんでください。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
歴史総合	日本語	2	榊　順一郎

科目の目標	○日本のことを踏まえた上で、世界と関わり世界的視野から見据える能力を身につける。　○ 近代化、大衆化、グローバル化という三つの歴史の流れを理解する。　○現 代的な諸課題を歴史的に考察する。
使用教科書	東京書籍　新選　歴史総合

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	歴史と私たち	日本と世界の歴史とはつながっていることを理解する	1
5月	歴史の特質と資料	資料に基づいて歴史は記述されていることを理解する	1
6月	市民革命と近代社会	市民革命は社会の仕組みを生み出したのかについて理解する	2
7月	明治維新と東アジアの国際関係	明治維新はどのような国際環境の中で起き日本の社会を変えたのか理解する	2
8月			
9月	近代化と現代的な諸課題	現代的な諸課題について考察し、近代化の歴史を理解する	3
10月	経済危機と第二次世界大戦	経済危機の背景と影響、政治体制の変化に着目する。	4
11月	国際秩序の変化や大衆化と諸課題	国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する	4
12月	グローバル化への問い	グローバル化に伴う生活や社会の変容について多面的、多角的に考察する	5
1月	冷戦と世界経済	冷戦が各国経済に及ぼした影響また冷戦の拡大と第三勢力の台頭を理解する	5
2月	世界秩序の変容と日本	冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する	6
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	—	—	50	15	50	10	25
提出物・成果物 （ノート、作品等）	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	—	—	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	教科書、ワークノート、筆記用ノートを忘れないようにしてください。 歴史に興味をもち、この歴史総合の教科書を読みながら楽しんでください。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
数学Ⅰ	日本語	2	中塚信夫

科目の目標	数学的な考え方を理解し、基本的な事項を確実に習得する。
使用教科書	『新 数学Ⅰ』東京書籍

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	第2章 2次関数 1節 2次関数とそのグラフ	関数とはなにかを理解し、点を取ることで関数をグラフで表せるようになる。また、2次関数の式を平方完成し頂点や軸の値を求められるようになる。	
5月			5
6月	第2章 2次関数 2節 2次関数の値の変化	2次関数の軸を用いて最大値・最小値が求められるようになる。	
7月			6
8月			
9月	3章 三角比 1節 鋭角の三角比	三角比とは何かを理解し、正弦、余弦、正接の値を求められるようになる。また、三角比の相互関係を理解し計算できるようになる。	7
10月	3章 三角比 2節 三角比の応用	正弦定理や余弦定理を用いて三角形の辺や角、三角形の面積などを求められるようになる。	
11月			8
12月	5章 データの分析 1節 データの分析 度数分布、代表値、四分位数	データの集まりから分布をまとめ、各種代表値を求められるようになる。	
1月	5章 データの分析 1節 データの分析 分散、標準偏差、相関係数	2つのデータの集まりからそれぞれのデータの散らばり具合や相関を調べられるようになる。	9
2月	単位認定試験		
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	—	—	50	15	50	10	25
提出物・成果物 (ノート、作品等)	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	—	—	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	

科目名	対象コース	単位数	担当教員
数学A	総合･ドッグケア･パソコン	2	見並　誠

科目の目標	数学的な考え方を理解し、基本的な事項を習得する。
使用教科書	『新 数学A』 東京書籍

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	1章　場合の数と確率 1節　場合の数 集合	集合の用語や記号の意味を理解し、表現できるようになる。	
5月	1章　場合の数と確率 1節　場合の数 和の法則と積の法則	和の法則と積の法則に意味を理解し、使い分けることができるようになる。	
6月	1章　場合の数と確率 1節　場合の数 順列	順列の計算方法を理解し、文章題でも応用できるようになる。	1
7月	1章　場合の数と確率 1節　場合の数 組合せ	組合せの計算方法を理解し、文章題でも応用できるようになる。	2
8月			
9月	1章　場合の数と確率 2節　確率 確率の意味	確率に関する身近な例や具体例を考えることで、確率とはどういうものかがイメージできるようになる。	
10月	1章　場合の数と確率 2節　確率 確率の計算	組合せを用いて、確率の計算ができるようになる。	3
11月	2章　図形の性質 1節　三角形の性質	平行線の定理を理解し、角度や辺の長さを求めることができるようになる。	4
12月	2章　図形の性質 2節　円の性質	円の性質や定理を理解し、角度や辺の長さを求めることができるようになる。	5
1月	3章　整数の性質 1節　約数と倍数 2節　整数の性質の応用	約数、倍数を利用した計算や、2進法を利用した計算ができるようになる。	6
2月	単位認定試験		
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	—	—	50	15	50	10	25
提出物･成果物 （ノート、作品等）	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	—	—	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	授業では、必要に応じて適宜小学校や中学校の内容も復習します。数学Aでは、数学Ⅰとは違って計算のほかに思考力や推理力が必要な問題もありますので、練習を重ねて徐々に慣れていってもらいたいと思います。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
数学Ⅱ	3年次	4	中塚信夫

科目の目標	数学Ⅰをさらに発展させた内容に取り組み、習得した知識、習熟した技能、事象を数学的に考察する能力等を活用する態度を育てる。
使用教科書	新数学Ⅱ （東京書籍）

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	1章　方程式･式と証明	三次以上の式を取り扱い、高次の式変形を学ぶ。 虚数単位「i」について理解する。	1
5月		因数定理を用いて、高次方程式を解く。 等式、不等式の証明を学ぶ。	2
6月	2章　図形と方程式	座標と直線の方程式を学び、円の方程式まで延長する。	3
7月		軌跡という考え方、領域の解き方を学ぶ。	4
8月			
9月	3章　三角関数	三角関数、加法定理を学び、三角形だけでなく、計算として三角比を使えるようになる。	5.6
10月	4章　指数関数と対数関数	指数関数を学ぶことで、分数乗やマイナス乗について理解する。	7
11月		指数関数から対数関数へつなげ、logについて理解を深める。	8
12月	5章　微分と積分	平均変化率から微分の意味と解き方を知る。	9.10
1月		積分が微分の逆の計算であることから計算の練習をし、積分と面積の関係性を知る。	11.12
2月	単位認定試験		
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	―	―	50	15	50	10	25
提出物･成果物 （ノート、作品等）	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	数学Ⅰの内容がさらに専門的になっている科目です。数学Ⅰが理解できている前提の授業展開となってしまう場合もありますので、しっかりと復習をしておいてください。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
生物基礎	日本語コース	2	朝熊　天章

科目の目標	・日常生活や社会との関連を図りながら，生物や生物現象について理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ・観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。 ・生物や生物現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度と，生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度を養う。
使用教科書	東京書籍「改訂新編生物基礎」(生基002-902)

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	1編　生物の特徴 1章　生き物の多様性と共通性	・地球上に多様な種がみられるのは，なぜかを考える。 ・生物は多様であるが，共通性があるのかを知る。 ・生物の細胞は，どのような特徴をもっているのかを知る。	No．1
5月	2章　生物とエネルギー	・生命活動に必要なエネルギーは，どのようにして得られるのかを知る。 ・呼吸や光合成では，どのようにエネルギーが利用されているかを考える。 ・酵素とはどのような物質なのかを知る。	
6月	2編　遺伝子とそのはたらき 1章　遺伝情報とDNA	・生物の形質は，何によって決まるのを知る。 ・DNAは，どのような構造をしているのかを知る。 ・DNAはどのようにして増えるのかを知る。	No．2
7月			
8月			
9月	2章　遺伝情報とタンパク質の合成	・タンパク質にはどのような役割があるのを考える。 ・タンパク質は，DNAからどのようにしてつくられるのを知る。 ・異なる種類の細胞ではたらいている遺伝子は，すべて同じなのを考える。	No．2
10月	3編　ヒトの体の調節 1章ヒトの体を調節するしくみ	・さまざまな環境に対応するために，ヒトの体にはどのような機能が備わっているのかを考え、知る。 ・神経系は，体内環境の維持(いじ)にどのようにかかわっているのかを考える。 ・内分泌系による情報伝達は，体内環境の維持にどのようにかかわっているのかを知る。 ・血糖濃度はどのようなしくみで調節されているのかを知る。	No．3
11月	2章　免疫のはたらき	・ヒトの体はどのようなしくみによって病原体から守られているのかを知る。 ・免疫のしくみを利用することで，どのようにして病気を予防できるのを考える。 ・免疫のしくみが過敏に反応したり，機能しなくなったりすると，ヒトの体にはどのような影響が出るのかを知る。	No．4
12月	4編　生物の多様性と生態系 1章　生殖と遷移	・植生によって環境はどのように変わるのかを考える。 ・時間の経過とともに，植生はどのように変化するのか考える。 ・遷移の結果，世界にはどのような植生が成立しているのを知る。	No．5
1月			
2月	2章　生態系と生物の多様性	・多様な生物と環境にはどのような関係がみられるのかを考える。 ・捕食・被食の関係性と生物の多様性とはどのように関連しているのを考える。 ・人間活動は，生態系にどのような影響を及ぼしているのかを考える。 ・なぜ，多様な生物を保全することが大切なのかを考える。	No．6
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	—	—	50	15	50	10	25
提出物・成果物 (ノート、作品等)	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	—	—	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	「生物の特徴」「遺伝子とそのはたらき」「ヒトの体の調節」「生物の多様性と生態系」という4つの分野に大きく分けて学習する中で，生物のもたらす豊かさや，生命活動の複雑さ，目の前の自然の成り立ちなどについて，さまざまなところに好奇心をもって学習を進める。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
体育	総合･ドッグケア･パソコン･日本語	3	北山･打田

科目の目標	運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようになるとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正･協力･責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を養う。
使用教科書	大修館 「現代高等保健体育」701

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月 5月 6月 7月	･規律訓練 ･体力テスト ･陸上競技 ･バレーボール	･集団行動の基本の集合、整頓、列の増減、方向転換を円滑に行えるようになる。 ･自己の体力を認識し、レベルの推移を理解する。 ･測定では集団行動の学習をいかし、円滑に授業の進行ができるよう全員で協力する。 ･攻撃の組み立てを楽しむ。個々の特徴を生かしたチームづくりに挑戦する。ローテーション方式に慣れて、それぞれの攻守の役割を理解したゲームに発展させる	1，2
8月			
9月 10月 11月 12月	･ソフトボール ･バドミントン ･バスケットボール	･キャッチボール、トスバッティングがスムーズにできる。 ･フライトの特性を理解する。サービスからの返球。攻めの局面と守りの局面を理解し、場面に応じた返球の仕方を工夫する。 ･正規のルールを理解し、チームとして組織的な攻撃･防御が展開できるようにする。	
1月 2月	･バスケットボール ･卓球	･正規のルールを理解し、チームとして組織的な攻撃･防御が展開できるようにする。 ･シングルス、ダブルスのゲームを行う。審判法を理解する。	

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	50	25	100	30	100	20	75
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	50	25	—	—	—	—	25
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	怪我をしないように、しっかりと体をほぐし、危険行為がないよう、注意をはかる。 実際に練習を行ってみて「うまくいったこと」「うまくいかなかったこと」を考慮し、対戦相手に応じた作戦を立案する。 ルール(方針)を的確に理解する。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
保健	日本語	1	長田　雪

科目の目標	肉体的･精神的に大人に近づいてくる高校生の時期から、その段階に応じた健康課題について理解を深める。 人々が健康に生きていくためには、周囲の自然環境や食品に関する健康問題について学習し、理解を深める。
使用教科書	701大修館 「現代高等保健体育」

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	ライフステージと健康 思春期と健康	ライフステージと健康の関連について説明できる。 思春期における体の変化を説明できる。	1
5月	性意識と性行動の選択 妊娠･出産と健康	性意識の男女差について説明できる。 妊娠･出産の過程を説明できる。	
6月	避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康	人工妊娠中絶が及ぼす影響を説明できる。 心身の発達と結婚生活のついて説明できる。	
7月	中高年期と健康 働くことと健康	加齢にともなう心身の変化について説明できる。 働くことの意義について説明できる。	
8月	夏季休業		
9月	労働災害と健康 健康的な職業生活	労働災害の種類と健康について説明できる。 余暇の必要性といぎについて説明できる。	2
10月	大気汚染と健康 水質汚濁、土壌汚染と健康	大気汚染の原因と影響について説明できる。 水質汚濁･土壌汚染について説明できる。	
11月	環境と健康にかかわる対策 ごみの処理と上下水道の整備	産業廃棄物による健康被害について説明できる。 ごみの処理の現状や課題について説明できる。	
12月	食品の安全性 食品衛生にかかわる活動	食品の安全性と健康の関りについて説明できる。 食品の安全性を確保する役割を説明できる。	
1月	保健サービスとその活用 医療サービスとその活用	保健行政の役割について説明できる。 医療機関の役割について説明できる。	3
2月	医薬品の制度とその活用 さまざまな健康活動や社会的対策	医薬品の正しい説明法について説明できる。 行政による社会的対策について説明できる。	

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	—	—	50	15	50	10	25
提出物･成果物 (ノート、作品等)	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	—	—	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	教科書の内容はもちろんのこと、「現代高等保健体育ノート」もあわせて授業をすすめてきます。必ず、授業時に持参してください。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
英語コミュニケーションⅡ	総合・ドッグケア・パソコン・日本語	4	澤井　邦央
科目の目標	1．必要な情報を聞き取り，話し手の意図を把握したり，概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができるようにする。 2．必要な情報を読み取り，書き手の意図を把握したり，概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができるようにする。 3．基本的な語句や文を用いて，情報や考え，気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり，論理性に注意して話して伝え合ったりすることができるようにする。		
使用教科書	All Aboard! English Communication Ⅰ （東京書籍）CⅡ701		

学習計画（レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。）

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月			1
5月	②Lesson 2 With the Beatles	②比較表現(more, the most)の用法を習得する。 ③itの用法を習得する。	2
6月	③Lesson 3 Wild Men	⑤to不定詞を含む表現を習得する。	3
7月	④Lesson 4 Little Hero	④間接疑問文の用法を習得する。	4
8月			
9月	⑤Lesson 5 Special Makeup in Kabuki ⑥Reading1 Mujina	⑥長文読解力を習得する。	5
10月	⑦Lesson 6 Seeds for Future Generations	⑦目的語としてのif節の用法を習得する。。	6.7
11月	⑧Lesson 7 Over the wall	⑧間接副詞(where,when)の用法を習得する。	8.9
12月	Ⅱ ⑨Lesson 8 Inspiration from Nature	⑨知覚動詞の用法を習得する。	10
1月	⑩Lesson 9 The bitter Truth behind Chocolate	⑪分詞構文の用法を習得する。	11
2月	⑪Lesson10 Fighting Angel ⑫Reading 2 Bear's Pie	⑫長文読解力の用法を習得する。	12
3月			

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	—	—	50	15	50	10	25
提出物・成果物（ノート、作品等）	20	10	30	9	50	10	29
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	—	—	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	

科目名	対象コース	単位数	担当教員
情報Ⅱ	総合･ドッグケア･日本語	2	神谷　卓敬

科目の目標	利用者や消費者ではなく，生産や制作をする立場への理解を深める高度な情報活用能力の習得を目指す。
使用教科書	情報Ⅱ （東京書籍　情Ⅱ701）

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	情報社会の進展と情報技術 p54,55	･情報技術の発展と生活の変化を理解する。 ･情報システムによる情報の流れを知り，情報モラルや法整備の重要性を理解する。	1
5月	コミュニケーションの多様化 p.56,57	･コミュニケーション手段の分類や特徴を意識し，考える。 ･情報の抽象化･可視化･構造化を理解する。	2
6月	メディアの特性と利用 p.64 コンテンツ制作 p.66	･メディアの特性について学習する。 ･学校PRプロジェクトに取り組むことで，アクセシビリティやユニバーサルデザインを考えた情報コンテンツの作成を学習する。	3
7月	人間の知的活動への影響 p.58	･人工知能やロボットなどの情報技術と生活の変化を理解する。	4
8月			
9月	社会にあふれるデータ p.76 データベースの管理と操作 p.78	･データの分類や特性を理解する。 ･関係データベースについて学習する。	5
10月	データの分析と分類 p.82	･相関関係と因果関係の違いを理解する。 ･回帰分析，説明変数，目的変数がどのようなものか理解する。	6
11月	モデルの評価と検証 p.84	･分析の結果できたモデルが適切かどうかを考える必要性を学習する。	
12月	情報システム p.92	･どのような情報技術を活用し，身近な生活を支える情報システムが実現されているかを理解する。	
1月	情報システムの設計 p.96	･情報システムの設計の流れを学習する。	
2月	情報システムのプログラム p.100	･情報システムを開発するうえで大切なプログラムの書き方を学習する。	
3月	情報システムのプログラム p.100	･情報システムを開発するうえで大切なプログラムの書き方を学習する。	

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	―	―	―	―	100	20	20
提出物･成果物（ノート、作品等）	20	10	80	24	―	―	34
単位認定試験 実技テスト、小テスト等	80	40	20	6	―	―	46
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	特に問題解決と，その為のコンピュータの利用の手順を身に付けてほしい。 理論編は授業をよく聴き，配布するプリントをしっかりと纏めておくこと。 定期考査毎に配布するプリントを提出させテストとともに総合的に評価する。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
ライフスキル	総合･ドッグケア･パソコン･日本語	2	北村　慶一

科目の目標	今後、社会人として必要な知識･教養･常識などを身に付け、暮らしやすい社会(就業や社会生活)の構築に向けてサポートする。
使用教科書	①社会への扉(消費者庁) ②知って役立つ労働法(厚生労働省) ③ビジネスマナー(問題集)

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標
4月	･ライフプラン(生涯設計) ･金銭教育	･将来どのような社会人像(職業観や人生観)を目指すか、そのためには何(スキル)が必要なのかを気づかせる。
5月	･消費者教育(契約･金銭･暮らしの安全)	･2022年の成年年齢の引き下げ(18歳)に伴い、未成年と成年との相違について学習するとともに、消費者の権利が守られる社会を理解させ、行動を促
6月	･ビジネスマナー(いろいろな座席の決まり) ･ビジネスマナー(挨拶)	･社会人としてのビジネスマナーについて理解させ、社会人としての常識やコミュニケーションへの第一歩としてのスキルを身に付けさせる。
7月	･ビジネスマナー(日常生活)	･日常生活におけるマナーについて理解させることにより、いろいろな状況時に即座に対応できるような意識を持たせる。
8月		
9月	･働く時のルール(就業前･就業規則･雇用契約･退職時) ･面接の受け方	･やりがいや生きがいを持って働くことができるために、働く人を守る法律(労働契約･就業規則･賃金･休暇休日等)について理解させ、今後のトラブルへの対処策や取るべき行動を身に付けさせる。
10月	･ビジネスマナー(訪問時) ･ビジネスマナー(服装) ･ビジネスマナー(冠婚葬祭)	･社会人となって初めて経験するような場面への対応について理解させ、今後の社会生活に生かせるようなスキルを身に付けさせる。
11月	･ビジネスマナー(手紙･メール) ･ビジネスマナー(食事)	･社会人として身に付けておかなければならないルールを理解させ、実技を取り入れながら臨機応変に対処できるような意識を持たせる。
12月	･ビジネスマナー(電話応対)	･社会人となって一番困難となる電話応対について、実技を交えながら実践することにより、その対処法やコミュニケーション能力を身に付けさせる。
1月	･1年間を振り返って ･今後の社会人像	･1年間の学習成果により、どのように意識が変化したか、ライフスキルに対する関心が向上したかについて分析し、今後暮らしやすい社会生活の構築に向けて、それぞれに希望を与える。
2月		
3月		

学習評価

評価の観点 / 評価方法	関心･意欲･態度	思考･判断	表現･処理･技能	知識･理解
定期試験	―	30	30	40
観察(行動･発言)等	30	―	―	―
ノート･作品･課題等	5	5	5	5
合計	35	35	35	45

履修にあたっての留意点	プレゼンテーション能力を身に付けていきます。 授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行います。 課題提出は、特別な事情がない限り、期日以降は一切受け取りません。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
総合的な探究の時間	総合･ドッグケア･パソコン･日本語	1	藤瀧　恭輔

科目の目標	①異文化理解という視点で、自他の置かれている環境の多様性を認識し、個人間や個と社会とのコミュニケーションのあり方の多様性について考えること。 ②問題(課題)意識を覚醒し、その社会的な解決に向けて自主的に学習したり、体験したりする態度を培うこと。
使用教科書	高校生のための進路プラン

学習計画(レポート提出が必要な科目は、レポートNo.を記入。)

月	学習内容	学習目標	レポートNo.
4月	人権学習･進路学習 『全国高等学校統一用紙』	･統一応募用紙制定の経緯を知る。 ･さまざま状況の中で進路を切り拓いていく仲間がいることを知る。 ･具体的に用紙への記入方法を学ぶ。	
5月			
6月			
7月			
8月			
9月	人権学習 成人について	･成人年齢が18歳となったことを踏まえ「成人」について考える。 ･以前から実施されている選挙年齢の18歳の責任についても考える。	1
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

学習評価

学習活動	観点	評価
		教科のように試験の成績等によって数値的に評価することはせず、学習の状況や成果を文章表記によって記録する。

履修にあたっての留意点	･さまざまな情報にふれることにより自己の中に無意識だった差別心に気づき、それと向き合う中で、社会と自己との関係を見つめ直し、自他ともに暮らしやすい社会の構築を具現化させる。 ･既存の価値観を押しつけることがないように学習を進める。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究A	1年次	2	長田・北山・打田・梶原

科目の目標	調理、将来、自炊などに必要なノウハウと料理のレシピ作りを学ぶ。旬の食材を生かした製菓を自身で考え、カロリー計算をした上で1日の摂取量の目安を考える。
	健康的な体づくりから、ニュースポーツなどへの挑戦や校外にて様々なスポーツを体験して、スポーツに関する課題の発見、研究、成果を目指す。
	日本語能力試験(JLPT)のN2またはN1合格を目指し、日本語の文法、語彙、読解、聴解能力を養う。
	基礎教養　ペン習字や小論文の解答例、新聞記事を写すことにより集中力を高め、自分の意見をまとめる力を養います。
使用教科書	日本語講座：『日本語能力試験N1　この1冊で合格する』

月	学習内容	学習目標
4月	調理室の使用方法について	調理室の使用方法や、材料の計量など、料理の基本を習得する
	オリエンテーション	内容の説明、理解
	オリエンテーション	内容の説明、理解
	オリエンテーション	内容の説明、理解
5月	調理実習	課題として与えられたメニューをグループで調理する。
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	模擬試験で実力を知る	日本語能力試験N2またはN1の問題に挑戦し、自分の実力を知る。
	ペン習字	プリントにて実施
6月	調理実習	課題として与えられたメニューをグループで調理する。
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	語彙の学習	日本語能力試験N2またはN1の語彙を学習する。
	ペン習字	プリントにて実施
7月	調理実習	衛生面を考えた調理方法を考える
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	語彙の学習	日本語能力試験N2またはN1の語彙を学習する。
	ペン習字	プリントにて実施
8月	夏季休業	
9月	調理実習 メニュー作成	グループにて自作のレシピを発案する。
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	文法の学習	日本語能力試験N2またはN1の文法を学習する。
	小論文	小論文を写す
10月	調理実習	食材は同じでも、調理方法によってはカロリーが違うことなどを考
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	文法の学習	日本語能力試験N2またはN1の文法を学習する。
	小論文	小論文を写す
11月	調理実習	文化祭にむけた発表の準備
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	模擬試験で受験に備える	12月に実施されるJLPTに向けた模擬試験を行い、強みと弱みを知る。
	小論文	小論文を写す
12月	調理実習 コース料理を考える	多品目の料理を考える
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	読解の学習	日本語能力試験N2またはN1の読解問題を学習する。
	新聞記事	新聞記事を写す
1月	調理実習 コース料理の実践	段取りを組んで多品目の調理に挑戦する
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	読解の学習	日本語能力試験N2またはN1の読解問題を学習する。
	新聞記事	新聞記事を写す
2月	調理実習	バレンタインで使える調理方法を学ぶ
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	聴解の学習	日本語能力試験N2またはN1の聴解問題を学習する。
	新聞記事	新聞記事を写す
3月	調理実習 食事会・反省	これまでの調理の工夫や試行錯誤したことをグループごとに話し合う。
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	聴解の学習	日本語能力試験N2またはN1の聴解問題を学習する。
	まとめ	ペン習字・小論文・新聞記事のそれぞれの取り組みによる成果を確認。

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物（ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	
	日本語講座は外国にルーツを持つ学生のみ受講可。授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究B	1年次	2	服部・鄭司・打田・

科目の目標	調理 将来、自炊などに必要なノウハウと料理のレシピ作りを学ぶ。旬の食材を生かした製菓を自身で考え、カロリー計算をした上で1日の摂取量の目安を考える。
	健康的な体づくりから、ニュースポーツなどへの挑戦や校外にて様々なスポーツを体験して、スポーツに関する課題の発見、研究、成果を目指す。
	日本語能力試験(JLPT)のN2またはN1合格を目指し、日本語の文法、語彙、読解、聴解能力を養う。
	基礎教養 ペン習字や小論文の解答例、新聞記事を写すことにより集中力を高め、自分の意見をまとめる力を養います。
使用教科書	日本語講座：『日本語能力試験N1 この1冊で合格する』

月	学習内容	学習目標
4月	調理室の使用方法について	調理室の使用方法や、材料の計量など、料理の基本を習得する
	オリエンテーション	内容の説明、理解
	オリエンテーション	内容の説明、理解
	オリエンテーション	内容の説明、理解
5月	調理実習	課題として与えられたメニューをグループで調理する。
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	模擬試験で実力を知る	日本語能力試験N2またはN1の問題に挑戦し、自分の実力を知る。
	ペン習字	プリントにて実施
6月	調理実習	課題として与えられたメニューをグループで調理する。
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	語彙の学習	日本語能力試験N2またはN1の語彙を学習する。
	ペン習字	プリントにて実施
7月	調理実習	衛生面を考えた調理方法を考える
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	語彙の学習	日本語能力試験N2またはN1の語彙を学習する。
	ペン習字	プリントにて実施
8月	夏季休業	
9月	調理実習 メニュー作成	グループにて自作のレシピを発案する。
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	文法の学習	日本語能力試験N2またはN1の文法を学習する。
	小論文	小論文を写す
10月	調理実習	食材は同じでも、調理方法によってはカロリーが違うことなどを考
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	文法の学習	日本語能力試験N2またはN1の文法を学習する。
	小論文	小論文を写す
11月	調理実習	文化祭にむけた発表の準備
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	模擬試験で受験に備える	12月に実施されるJLPTに向けた模擬試験を行い、強みと弱みを知る。
	小論文	小論文を写す
12月	調理実習 コース料理を考える	多品目の料理を考える
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	読解の学習	日本語能力試験N2またはN1の読解問題を学習する。
	新聞記事	新聞記事を写す
1月	調理実習 コース料理の実践	段取りを組んで多品目の調理に挑戦する
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	読解の学習	日本語能力試験N2またはN1の読解問題を学習する。
	新聞記事	新聞記事を写す
2月	調理実習	バレンタインで使える調理方法を学ぶ
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	聴解の学習	日本語能力試験N2またはN1の聴解問題を学習する。
	新聞記事	新聞記事を写す
3月	調理実習 食事会・反省	これまでの調理の工夫や試行錯誤したことをグループごとに話し合う。
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	聴解の学習	日本語能力試験N2またはN1の聴解問題を学習する。
	まとめ	ペン習字・小論文・新聞記事のそれぞれの取り組みによる成果を確認。

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物（ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	
	日本語講座は外国にルーツを持つ学生のみ受講可。授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究C	1年次	2	長田・北山・打田・山田

科目の目標	調理、将来、自炊などに必要なノウハウと料理のレシピ作りを学ぶ。旬の食材を生かした製菓を自身で考え、カロリー計算をした上で1日の摂取量の目安を考える。
	健康的な体づくりから、ニュースポーツなどへの挑戦や校外にて様々なスポーツを体験して、スポーツに関する課題の発見、研究、成果を目指す。
	日本語能力試験(JLPT)のN2またはN1合格を目指し、日本語の文法、語彙、読解、聴解能力を養う。
	基礎教養　ペン習字や小論文の解答例、新聞記事を写すことにより集中力を高め、自分の意見をまとめる力を養います。
使用教科書	日本語講座：『日本語能力試験N1　この1冊で合格する』

月	学習内容	学習目標
4月	調理室の使用方法について	調理室の使用方法や、材料の計量など、料理の基本を習得する
	オリエンテーション	内容の説明、理解
	オリエンテーション	内容の説明、理解
	オリエンテーション	内容の説明、理解
5月	調理実習	課題として与えられたメニューをグループで調理する。
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	模擬試験で実力を知る	日本語能力試験N2またはN1の問題に挑戦し、自分の実力を知る。
	ペン習字	プリントにて実施
6月	調理実習	課題として与えられたメニューをグループで調理する。
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	語彙の学習	日本語能力試験N2またはN1の語彙を学習する。
	ペン習字	プリントにて実施
7月	調理実習	衛生面を考えた調理方法を考える
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	語彙の学習	日本語能力試験N2またはN1の語彙を学習する。
	ペン習字	プリントにて実施
8月	夏季休業	
9月	調理実習 メニュー作成	グループにて自作のレシピを発案する。
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	文法の学習	日本語能力試験N2またはN1の文法を学習する。
	小論文	小論文を写す
10月	調理実習	食材は同じでも、調理方法によってはカロリーが違うことなどを考
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	文法の学習	日本語能力試験N2またはN1の文法を学習する。
	小論文	小論文を写す
11月	調理実習	文化祭にむけた発表の準備
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	模擬試験で受験に備える	12月に実施されるJLPTに向けた模擬試験を行い、強みと弱みを知る。
	小論文	小論文を写す
12月	調理実習 コース料理を考える	多品目の料理を考える
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	読解の学習	日本語能力試験N2またはN1の読解問題を学習する。
	新聞記事	新聞記事を写す
1月	調理実習 コース料理の実践	段取りを組んで多品目の調理に挑戦する
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	読解の学習	日本語能力試験N2またはN1の読解問題を学習する。
	新聞記事	新聞記事を写す
2月	調理実習	バレンタインで使える調理方法を学ぶ
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	聴解の学習	日本語能力試験N2またはN1の聴解問題を学習する。
	新聞記事	新聞記事を写す
3月	調理実習 食事会・反省	これまでの調理の工夫や試行錯誤したことをグループごとに話し合う。
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	聴解の学習	日本語能力試験N2またはN1の聴解問題を学習する。
	まとめ	ペン習字・小論文・新聞記事のそれぞれの取り組みによる成果を確認。

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物（ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	
	日本語講座は外国にルーツを持つ学生のみ受講可。授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
探究学習	総合(1年)	2	藤瀧･北山･打田

科目の目標	興味関心に基づくテーマを決めて、自ら課題を持って探究する。そこから卒業後の進路や地域貢献など、社会的に意味のあるテーマを学習することを目標とする。
使用教科書	

学習計画

月	学習内容	学習目標
4月	オリエンテーション	全体計画･テーマの説明。
5月	グループ･テーマ決め	課題研究ABCの取組から、探究テーマを設定
6月	図書館	校外に出て調べ学習。
7月	中間①発表会	探究学習としての習熟度を確認
8月		
9月	探究活動	発表会に向けた活動および自己肯定感の向上を目指す。
10月	探究活動　外部講師による体験型学習	発表会に向けた活動および自己肯定感の向上を目指す。
11月	中間②発表会	中間①との比較をし、習熟度確認
12月	探究活動	発表会に向けた活動および自己肯定感の向上を目指す。
1月	探究活動	発表会に向けた活動および自己肯定感の向上を目指す。
2月	最終発表会	感想だけではなく、探究学習を通して発表する表現力や学ぶ力など、成長へとつながる学習内容を目指す。
3月	次年度に向けて	自己評価･他者評価を経て、次年度に向けた目標意識を育む。

講座の構成	本講座のスタートは、問いの設定、テーマ決めを1学期までに設定。2学期から本格的に探究学習を実施。それぞれが様々なテーマを持って取り組む。担当する教員は、校外学習以外の時間で、様々な探究テーマに沿った講義を展開する。(場合によっては外部講師の依頼も検討)3学期では、生徒が探究学習の成果を発表する。探究のテーマに沿って設定から解決までを必ず実施して資質･能力の育成を目指す。また自己評価のみではなく他者評価も行い、人間力向上を目指していく。

学習評価	ファイルによる提出物、発表会による3観点での評価を実施。

履修にあたっての留意点	

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究A	2年次	2	長田・北山・打田・梶原

科目の目標	調理 将来、自炊などに必要なノウハウと料理のレシピ作りを学ぶ。旬の食材を生かした製菓を自身で考え、カロリー計算をした上で1日の摂取量の目安を考える。
	健康的な体づくりから、ニュースポーツなどへの挑戦や校外にて様々なスポーツを体験して、スポーツに関する課題の発見、研究、成果を目指す。
	日本語能力試験(JLPT)のN2またはN1合格を目指し、日本語の文法、語彙、読解、聴解能力を養う。
	基礎教養 ペン習字や小論文の解答例、新聞記事を写すことにより集中力を高め、自分の意見をまとめる力を養います。
使用教科書	日本語講座：『日本語能力試験N1 この1冊で合格する』

月	学習内容	学習目標
4月	調理室の使用方法について	調理室の使用方法や、材料の計量など、料理の基本を習得する
	オリエンテーション	内容の説明、理解
	オリエンテーション	内容の説明、理解
	オリエンテーション	内容の説明、理解
5月	調理実習	課題として与えられたメニューをグループで調理する。
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	模擬試験で実力を知る	日本語能力試験N2またはN1の問題に挑戦し、自分の実力を知る。
	ペン習字	プリントにて実施
6月	調理実習	課題として与えられたメニューをグループで調理する。
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	語彙の学習	日本語能力試験N2またはN1の語彙を学習する。
	ペン習字	プリントにて実施
7月	調理実習	衛生面を考えた調理方法を考える
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	語彙の学習	日本語能力試験N2またはN1の語彙を学習する。
	ペン習字	プリントにて実施
8月	夏季休業	
9月	調理実習 メニュー作成	グループにて自作のレシピを発案する。
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	文法の学習	日本語能力試験N2またはN1の文法を学習する。
	小論文	小論文を写す
10月	調理実習	食材は同じでも、調理方法によってはカロリーが違うことなどを考
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	文法の学習	日本語能力試験N2またはN1の文法を学習する。
	小論文	小論文を写す
11月	調理実習	文化祭にむけた発表の準備
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	模擬試験で受験に備える	12月に実施されるJLPTに向けた模擬試験を行い、強みと弱みを知る。
	小論文	小論文を写す
12月	調理実習 コース料理を考える	多品目の料理を考える
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	読解の学習	日本語能力試験N2またはN1の読解問題を学習する。
	新聞記事	新聞記事を写す
1月	調理実習 コース料理の実践	段取りを組んで多品目の調理に挑戦する
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	読解の学習	日本語能力試験N2またはN1の読解問題を学習する。
	新聞記事	新聞記事を写す
2月	調理実習	バレンタインで使える調理方法を学ぶ
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	聴解の学習	日本語能力試験N2またはN1の聴解問題を学習する。
	新聞記事	新聞記事を写す
3月	調理実習 食事会・反省	これまでの調理の工夫や試行錯誤したことをグループごとに話し合う。
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	聴解の学習	日本語能力試験N2またはN1の聴解問題を学習する。
	まとめ	ペン習字・小論文・新聞記事のそれぞれの取り組みによる成果を確認。

学習評価

評価の観点 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物 （ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	
	日本語講座は外国にルーツを持つ学生のみ受講可。授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究B	2年次	2	服部・鄭司・打田・

科目の目標	調理 将来、自炊などに必要なノウハウと料理のレシピ作りを学ぶ。旬の食材を生かした製菓を自身で考え、カロリー計算をした上で1日の摂取量の目安を考える。
	健康的な体づくりから、ニュースポーツなどへの挑戦や校外にて様々なスポーツを体験して、スポーツに関する課題の発見、研究、成果を目指す。
	日本語能力試験(JLPT)のN2またはN1合格を目指し、日本語の文法、語彙、読解、聴解能力を養う。
	基礎教養 ペン習字や小論文の解答例、新聞記事を写すことにより集中力を高め、自分の意見をまとめる力を養います。
使用教科書	日本語講座：『日本語能力試験N1 この1冊で合格する』

月	学習内容	学習目標
4月	調理室の使用方法について	調理室の使用方法や、材料の計量など、料理の基本を習得する
	オリエンテーション	内容の説明、理解
	オリエンテーション	内容の説明、理解
	オリエンテーション	内容の説明、理解
5月	調理実習	課題として与えられたメニューをグループで調理する。
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	模擬試験で実力を知る	日本語能力試験N2またはN1の問題に挑戦し、自分の実力を知る。
	ペン習字	プリントにて実施
6月	調理実習	課題として与えられたメニューをグループで調理する。
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	語彙の学習	日本語能力試験N2またはN1の語彙を学習する。
	ペン習字	プリントにて実施
7月	調理実習	衛生面を考えた調理方法を考える
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	語彙の学習	日本語能力試験N2またはN1の語彙を学習する。
	ペン習字	プリントにて実施
8月	夏季休業	
9月	調理実習 メニュー作成	グループにて自作のレシピを発案する。
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	文法の学習	日本語能力試験N2またはN1の文法を学習する。
	小論文	小論文を写す
10月	調理実習	食材は同じでも、調理方法によってはカロリーが違うことなどを考
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	文法の学習	日本語能力試験N2またはN1の文法を学習する。
	小論文	小論文を写す
11月	調理実習	文化祭にむけた発表の準備
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	模擬試験で受験に備える	12月に実施されるJLPTに向けた模擬試験を行い、強みと弱みを知る。
	小論文	小論文を写す
12月	調理実習 コース料理を考える	多品目の料理を考える
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	読解の学習	日本語能力試験N2またはN1の読解問題を学習する。
	新聞記事	新聞記事を写す
1月	調理実習 コース料理の実践	段取りを組んで多品目の調理に挑戦する
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	読解の学習	日本語能力試験N2またはN1の読解問題を学習する。
	新聞記事	新聞記事を写す
2月	調理実習	バレンタインで使える調理方法を学ぶ
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	聴解の学習	日本語能力試験N2またはN1の聴解問題を学習する。
	新聞記事	新聞記事を写す
3月	調理実習 食事会・反省	これまでの調理の工夫や試行錯誤したことをグループごとに話し合う。
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	聴解の学習	日本語能力試験N2またはN1の聴解問題を学習する。
	まとめ	ペン習字・小論文・新聞記事のそれぞれの取り組みによる成果を確認。

学習評価

評価の観点 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物 （ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	
	日本語講座は外国にルーツを持つ学生のみ受講可。授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究C	2年次	2	長田・北山・打田・山田

科目の目標	調理 将来、自炊などに必要なノウハウと料理のレシピ作りを学ぶ。旬の食材を生かした製菓を自身で考え、カロリー計算をした上で1日の摂取量の目安を考える。
	健康的な体づくりから、ニュースポーツなどへの挑戦や校外にて様々なスポーツを体験して、スポーツに関する課題の発見、研究、成果を目指す。
	日本語能力試験(JLPT)のN2またはN1合格を目指し、日本語の文法、語彙、読解、聴解能力を養う。
	基礎教養 ペン習字や小論文の解答例、新聞記事を写すことにより集中力を高め、自分の意見をまとめる力を養います。
使用教科書	日本語講座：『日本語能力試験N1 この1冊で合格する』

月	学習内容	学習目標
4月	調理室の使用方法について	調理室の使用方法や、材料の計量など、料理の基本を習得する
	オリエンテーション	内容の説明、理解
	オリエンテーション	内容の説明、理解
	オリエンテーション	内容の説明、理解
5月	調理実習	課題として与えられたメニューをグループで調理する。
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	模擬試験で実力を知る	日本語能力試験N2またはN1の問題に挑戦し、自分の実力を知る。
	ペン習字	プリントにて実施
6月	調理実習	課題として与えられたメニューをグループで調理する。
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	語彙の学習	日本語能力試験N2またはN1の語彙を学習する。
	ペン習字	プリントにて実施
7月	調理実習	衛生面を考えた調理方法を考える
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	語彙の学習	日本語能力試験N2またはN1の語彙を学習する。
	ペン習字	プリントにて実施
8月	夏季休業	
9月	調理実習 メニュー作成	グループにて自作のレシピを発案する。
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	文法の学習	日本語能力試験N2またはN1の文法を学習する。
	小論文	小論文を写す
10月	調理実習	食材は同じでも、調理方法によってはカロリーが違うことなどを考
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	文法の学習	日本語能力試験N2またはN1の文法を学習する。
	小論文	小論文を写す
11月	調理実習	文化祭にむけた発表の準備
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	模擬試験で受験に備える	12月に実施されるJLPTに向けた模擬試験を行い、強みと弱みを知る。
	小論文	小論文を写す
12月	調理実習 コース料理を考える	多品目の料理を考える
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	読解の学習	日本語能力試験N2またはN1の読解問題を学習する。
	新聞記事	新聞記事を写す
1月	調理実習 コース料理の実践	段取りを組んで多品目の調理に挑戦する
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	読解の学習	日本語能力試験N2またはN1の読解問題を学習する。
	新聞記事	新聞記事を写す
2月	調理実習	バレンタインで使える調理方法を学ぶ
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	聴解の学習	日本語能力試験N2またはN1の聴解問題を学習する。
	新聞記事	新聞記事を写す
3月	調理実習 食事会・反省	これまでの調理の工夫や試行錯誤したことをグループごとに話し合う。
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	聴解の学習	日本語能力試験N2またはN1の聴解問題を学習する。
	まとめ	ペン習字・小論文・新聞記事のそれぞれの取り組みによる成果を確認。

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物（ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	
	日本語講座は外国にルーツを持つ学生のみ受講可。授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
探究学習	総合(2年)	2	藤瀧･北山･打田

科目の目標	興味関心に基づくテーマを決めて、自ら課題を持って探究する。そこから卒業後の進路や地域貢献など、社会的に意味のあるテーマを学習することを目標とする。
使用教科書	

学習計画

月	学習内容	学習目標
4月	オリエンテーション	全体計画･テーマの説明。
5月	グループ･テーマ決め	課題研究ABCの取組から、探究テーマを設定
6月	図書館	校外に出て調べ学習。
7月	中間①発表会	探究学習としての習熟度を確認
8月		
9月	探究活動	発表会に向けた活動および自己肯定感の向上を目指す。
10月	探究活動　外部講師による体験型学習	発表会に向けた活動および自己肯定感の向上を目指す。
11月	中間②発表会	中間①との比較をし、習熟度確認
12月	探究活動	発表会に向けた活動および自己肯定感の向上を目指す。
1月	探究活動	発表会に向けた活動および自己肯定感の向上を目指す。
2月	最終発表会	感想だけではなく、探究学習を通して発表する表現力や学ぶ力など、成長へとつながる学習内容を目指す。
3月	次年度に向けて	自己評価･他者評価を経て、次年度に向けた目標意識を育む。

講座の構成	本講座のスタートは、問いの設定、テーマ決めを1学期までに設定。2学期から本格的に探究学習を実施。それぞれが様々なテーマを持って取り組む。担当する教員は、校外学習以外の時間で、様々な探究テーマに沿った講義を展開する。(場合によっては外部講師の依頼も検討)3学期では、生徒が探究学習の成果を発表する。探究のテーマに沿って設定から解決までを必ず実施して資質･能力の育成を目指す。また自己評価のみではなく他者評価も行い、人間力向上を目指していく。

学習評価	ファイルによる提出物、発表会による3観点での評価を実施。

履修にあたっての留意点	

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究A	3年次	2	長田・北山・打田・梶原

科目の目標	調理、将来、自炊などに必要なノウハウと料理のレシピ作りを学ぶ。旬の食材を生かした製菓を自身で考え、カロリー計算をした上で1日の摂取量の目安を考える。
	健康的な体づくりから、ニュースポーツなどへの挑戦や校外にて様々なスポーツを体験して、スポーツに関する課題の発見、研究、成果を目指す。
	日本語能力試験(JLPT)のN2またはN1合格を目指し、日本語の文法、語彙、読解、聴解能力を養う。
	基礎教養　ペン習字や小論文の解答例、新聞記事を写すことにより集中力を高め、自分の意見をまとめる力を養います。
使用教科書	日本語講座：『日本語能力試験N1　この1冊で合格する』

月	学習内容	学習目標
4月	調理室の使用方法について	調理室の使用方法や、材料の計量など、料理の基本を習得する
	オリエンテーション	内容の説明、理解
	オリエンテーション	内容の説明、理解
	オリエンテーション	内容の説明、理解
5月	調理実習	課題として与えられたメニューをグループで調理する。
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	模擬試験で実力を知る	日本語能力試験N2またはN1の問題に挑戦し、自分の実力を知る。
	ペン習字	プリントにて実施
6月	調理実習	課題として与えられたメニューをグループで調理する。
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	語彙の学習	日本語能力試験N2またはN1の語彙を学習する。
	ペン習字	プリントにて実施
7月	調理実習	衛生面を考えた調理方法を考える
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	語彙の学習	日本語能力試験N2またはN1の語彙を学習する。
	ペン習字	プリントにて実施
8月	夏季休業	
9月	調理実習 メニュー作成	グループにて自作のレシピを発案する。
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	文法の学習	日本語能力試験N2またはN1の文法を学習する。
	小論文	小論文を写す
10月	調理実習	食材は同じでも、調理方法によってはカロリーが違うことなどを考
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	文法の学習	日本語能力試験N2またはN1の文法を学習する。
	小論文	小論文を写す
11月	調理実習	文化祭にむけた発表の準備
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	模擬試験で受験に備える	12月に実施されるJLPTに向けた模擬試験を行い、強みと弱みを知る。
	小論文	小論文を写す
12月	調理実習 コース料理を考える	多品目の料理を考える
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	読解の学習	日本語能力試験N2またはN1の読解問題を学習する。
	新聞記事	新聞記事を写す
1月	調理実習 コース料理の実践	段取りを組んで多品目の調理に挑戦する
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	読解の学習	日本語能力試験N2またはN1の読解問題を学習する。
	新聞記事	新聞記事を写す
2月		
3月		

学習評価

評価の観点 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物 （ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	
	日本語講座は外国にルーツを持つ学生のみ受講可。授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究B	3年次	2	服部・鄭司・打田・

科目の目標	調理、将来、自炊などに必要なノウハウと料理のレシピ作りを学ぶ。旬の食材を生かした製菓を自身で考え、カロリー計算をした上で1日の摂取量の目安を考える。
	健康的な体づくりから、ニュースポーツなどへの挑戦や校外にて様々なスポーツを体験して、スポーツに関する課題の発見、研究、成果を目指す。
	日本語能力試験(JLPT)のN2またはN1合格を目指し、日本語の文法、語彙、読解、聴解能力を養う。
	基礎教養　ペン習字や小論文の解答例、新聞記事を写すことにより集中力を高め、自分の意見をまとめる力を養います。
使用教科書	日本語講座：『日本語能力試験N1　この1冊で合格する』

月	学習内容	学習目標
4月	調理室の使用方法について	調理室の使用方法や、材料の計量など、料理の基本を習得する
	オリエンテーション	内容の説明、理解
	オリエンテーション	内容の説明、理解
	オリエンテーション	内容の説明、理解
5月	調理実習	課題として与えられたメニューをグループで調理する。
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	模擬試験で実力を知る	日本語能力試験N2またはN1の問題に挑戦し、自分の実力を知る。
	ペン習字	プリントにて実施
6月	調理実習	課題として与えられたメニューをグループで調理する。
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	語彙の学習	日本語能力試験N2またはN1の語彙を学習する。
	ペン習字	プリントにて実施
7月	調理実習	衛生面を考えた調理方法を考える
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	語彙の学習	日本語能力試験N2またはN1の語彙を学習する。
	ペン習字	プリントにて実施
8月	夏季休業	
9月	調理実習 メニュー作成	グループにて自作のレシピを発案する。
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	文法の学習	日本語能力試験N2またはN1の文法を学習する。
	小論文	小論文を写す
10月	調理実習	食材は同じでも、調理方法によってはカロリーが違うことなどを考
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	文法の学習	日本語能力試験N2またはN1の文法を学習する。
	小論文	小論文を写す
11月	調理実習	文化祭にむけた発表の準備
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	模擬試験で受験に備える	12月に実施されるJLPTに向けた模擬試験を行い、強みと弱みを知る。
	小論文	小論文を写す
12月	調理実習 コース料理を考える	多品目の料理を考える
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	読解の学習	日本語能力試験N2またはN1の読解問題を学習する。
	新聞記事	新聞記事を写す
1月	調理実習 コース料理の実践	段取りを組んで多品目の調理に挑戦する
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	読解の学習	日本語能力試験N2またはN1の読解問題を学習する。
	新聞記事	新聞記事を写す
2月		
3月		

学習評価

評価の観点 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物 （ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	
	日本語講座は外国にルーツを持つ学生のみ受講可。授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究C	3年次	2	長田・北山・打田・山田

科目の目標	調理、将来、自炊などに必要なノウハウと料理のレシピ作りを学ぶ。旬の食材を生かした製菓を自身で考え、カロリー計算をした上で1日の摂取量の目安を考える。
	健康的な体づくりから、ニュースポーツなどへの挑戦や校外にて様々なスポーツを体験して、スポーツに関する課題の発見、研究、成果を目指す。
	日本語能力試験(JLPT)のN2またはN1合格を目指し、日本語の文法、語彙、読解、聴解能力を養う。
	基礎教養　ペン習字や小論文の解答例、新聞記事を写すことにより集中力を高め、自分の意見をまとめる力を養います。
使用教科書	日本語講座：『日本語能力試験N1　この1冊で合格する』

月	学習内容	学習目標
4月	調理室の使用方法について	調理室の使用方法や、材料の計量など、料理の基本を習得する
	オリエンテーション	内容の説明、理解
	オリエンテーション	内容の説明、理解
	オリエンテーション	内容の説明、理解
5月	調理実習	課題として与えられたメニューをグループで調理する。
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	模擬試験で実力を知る	日本語能力試験N2またはN1の問題に挑戦し、自分の実力を知る。
	ペン習字	プリントにて実施
6月	調理実習	課題として与えられたメニューをグループで調理する。
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	語彙の学習	日本語能力試験N2またはN1の語彙を学習する。
	ペン習字	プリントにて実施
7月	調理実習	衛生面を考えた調理方法を考える
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	語彙の学習	日本語能力試験N2またはN1の語彙を学習する。
	ペン習字	プリントにて実施
8月	夏季休業	
9月	調理実習 メニュー作成	グループにて自作のレシピを発案する。
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	文法の学習	日本語能力試験N2またはN1の文法を学習する。
	小論文	小論文を写す
10月	調理実習	食材は同じでも、調理方法によってはカロリーが違うことなどを考
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	文法の学習	日本語能力試験N2またはN1の文法を学習する。
	小論文	小論文を写す
11月	調理実習	文化祭にむけた発表の準備
	運動実践	グラウンド・体育館にて球技等を実践する
	模擬試験で受験に備える	12月に実施されるJLPTに向けた模擬試験を行い、強みと弱みを知る。
	小論文	小論文を写す
12月	調理実習 コース料理を考える	多品目の料理を考える
	運動実践 校外実習	校外にて普段できない競技を実施する
	読解の学習	日本語能力試験N2またはN1の読解問題を学習する。
	新聞記事	新聞記事を写す
1月	調理実習 コース料理の実践	段取りを組んで多品目の調理に挑戦する
	ニュースポーツへの挑戦	新しい競技に挑戦する意識をもつ
	読解の学習	日本語能力試験N2またはN1の読解問題を学習する。
	新聞記事	新聞記事を写す
2月		
3月		

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物（ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	
	日本語講座は外国にルーツを持つ学生のみ受講可。授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象コース	単位数	担当教員
探究学習	総合(3年)	2	藤瀧･北山･打田

科目の目標	興味関心に基づくテーマを決めて、自ら課題を持って探究する。そこから卒業後の進路や地域貢献など、社会的に意味のあるテーマを学習することを目標とする。
使用教科書	

学習計画

月	学習内容	学習目標
4月	オリエンテーション	全体計画･テーマの説明。
5月	グループ･テーマ決め	課題研究ABCの取組から、探究テーマを設定
6月	図書館	校外に出て調べ学習。
7月	中間①発表会	探究学習としての習熟度を確認
8月		
9月	探究活動	発表会に向けた活動および自己肯定感の向上を目指す。
10月	探究活動　外部講師による体験型学習	発表会に向けた活動および自己肯定感の向上を目指す。
11月	中間②発表会	中間①との比較をし、習熟度確認
12月	探究活動	発表会に向けた活動および自己肯定感の向上を目指す。
1月	最終発表会	態度だけではなく、探究学習を通して発表する表現力や学ぶ力など、成長へとつながる学習内容を目指す
2月		
3月		

講座の構成	本講座のスタートは、問いの設定、テーマ決めを1学期までに設定。2学期から本格的に探究学習を実施。それぞれが様々なテーマを持って取り組む。担当する教員は、校外学習以外の時間で、様々な探究テーマに沿った講義を展開する。(場合によっては外部講師の依頼も検討)3学期では、生徒が探究学習の成果を発表する。探究のテーマに沿って設定から解決までを必ず実施して資質･能力の育成を目指す。また自己評価のみではなく他者評価も行い、人間力向上を目指していく。

学習評価	ファイルによる提出物、発表会による3観点での評価を実施。

履修にあたっての留意点	

科目名	対象コース	単位数	担当教員
ソーシャルスキルトレーニング	総合	1	北森

科目の目標	言葉で考え、判断し、表現する言語能力および認知機能・感情統制機能の向上を図る学習活動を通じてソーシャルスキルを身につける。 ・卒業後の進路実現をめざし、認知行動療法の一つである「ウィルビーイング手法」を習得し、活き活きと生きるコツを身につける。
使用教科書	

学習計画

月	学習内容	学習目標
4月	ウィルビーング視点に気づく	自分の普段の物事の捉え方を知る
5月	ワクワク会話を身につける	ワクワク会話から自分のいい点に気づく
6月	自分の強みに気づいて伸ばす	自分の強みを発見する
7月	一所懸命になる	一所懸命を見つける
8月	夏季休業	
9月	感謝と親切	見返りのない親切行為を実践する
10月	目標と価値観を明確にする	生きがいに気づく
11月	自己評価をして自分を好きになる	肯定的自己評価をして自分を好きになる
12月	人との絆からコミュニケーションを拡大する	絆をどんどん広げていく
1月	3年間の学習の振り返りと自己理解	3年間の学習を振り返り、コミュニケーションスキルの向上を実感する
2月	ーーーーー	ーーーーー
3月	ーーーーー	ーーーーー

講座の構成	・自己理解・自己実現を目標に、ウィルビーング手法を用いたワークを行う。 ・ゲーム感覚で行える「知識、思考力」トレーニングを毎時間取り入れる。

学習評価

学習の状況・成果等	評　価
「十分満足できる」状況と判	SSTに関する学習に主体的に取り組み、その状況・成果等は十分満足できるものであった。
「おおむね満足できる」状	SSTに関する学習に取り組み、その状況・成果等はおおむね満足できるものであった。
「努力を要する」状況と判	SSTに関する学習に取り組み、その状況・成果等は努力を要するものであった。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究A （トリミング）	1年次	4	北嶋　晴香 我妻花緒梨

科目の目標	基本的な犬の取り扱い方、犬の基本的な美容方法を学び技術修得とともに理解する。
使用教科書	美容道具一式、教材犬

月	学習内容	学習目標
4月	犬の基本的な取り扱い方法を理解する	美容する上での注意点、犬の扱い方について説明を行う
5月	犬の基本的な取り扱い方法を理解しながらベー	ベーシックする上での道具の正しい持ち方、使い方を理解する
6月	ベーシックする上での道具の正しい持ち方、使い	グ、耳掃除、爪切り、ベイジング、ドライング）を中心に1匹に対して
7月	ベーシック方法を理解する （ベーシック基礎Ⅰ）	ベーシックを中心に1匹に対して1～2人体制で行う
8月	夏季休暇	
9月	ベーシック方法を理解する （ベーシック基礎Ⅱ）	門・お腹）を中心に1匹に対して1～2人体制で行い、犬の保定の
10月	ベーシック方法を理解する （ベーシック基礎Ⅱ）	門・お腹）を中心に1匹に対して1～2人体制で行い、犬の保定の
11月	ベーシック方法を理解する （ベーシック基礎Ⅲ）	門・お腹）を中心に1匹に対して1～2人体制で行い、犬の保定の
12月	ベーシック方法を理解する （ベーシック基礎Ⅲ）	お腹）を中心に1匹に対して1～2人体制で行い、湯の適温度、ト
1月	ベーシック・クリッピング（足裏・肛門・お腹）を中心	（足裏・肛門・お腹）を一通り1匹に対して1人体制で行いベーシ
2月	ベーシック方法を理解する （ベーシック基礎Ⅳ）	（足裏・肛門・お腹）を一通り1匹に対して1人体制で行いベーシ
3月	まとめ	1年間で学んだことの理解度を測る。 （テスト形式）

学習評価

評価の観点 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物 （ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	ドッグケアコースのみ

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究B （トレーニング）	1年次	2	濵田のぞみ 中　碧衣

科目の目標	犬の習性を知るとともに、基本的な犬の取り扱い方や、トレーニング方法を学ぶ。
使用教科書	訓練道具一式 教材犬

月	学習内容	学習目標
4月	犬の習性について① 犬の基本的なコントロール方法① グルーミング（健康チェック）	犬の習性を理解し、犬との関わり方を学ぶ。 グルーミングを通じて犬とのコミュニケーションをはかり、健康チェックの必要性について理解する。
5月	犬の習性について② 犬の基本的なコントロール方法② グルーミング（健康チェック）	犬の習性を理解し、犬との関わり方を学ぶ。 グルーミングを通じて犬とのコミュニケーションをはかり、健康チェックの必要性について理解する。
6月	犬の基本的なコントロール方法③ グルーミング（健康チェック）	リーダーウォークを通じて、犬を横に付けて歩く方法を学ぶ。
7月	犬の基本的なコントロール方法④ グルーミング（健康チェック）	リーダーウォークを通じて、犬を横に付けて歩く方法を学ぶ。
8月	夏季休暇	
9月	基礎訓練（オビディエンストレーニング） グルーミング（健康チェック）	オビディエンストレーニングの方法を理解し、実践する。
10月	基礎訓練（オビディエンストレーニング） グルーミング（健康チェック）	オビディエンストレーニングの方法を理解し、実践する。
11月	基礎訓練（オビディエンストレーニング） グルーミング（健康チェック）	オビディエンストレーニングの方法を理解し、実践する。
12月	基礎訓練（オビディエンストレーニング） グルーミング（健康チェック）	オビディエンストレーニングの方法を理解し、実践する。
1月	基礎訓練（オビディエンストレーニング） グルーミング（健康チェック）	オビディエンストレーニングの方法を理解し、実践する。
2月	基礎訓練（オビディエンストレーニング） グルーミング（健康チェック）	オビディエンストレーニングの方法を理解し、実践する。
3月	基礎訓練（オビディエンストレーニング） グルーミング（健康チェック） まとめ	オビディエンストレーニングの方法を理解し、実践する。

学習評価

評価の観点 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物 （ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究C （ドッグマスター）	1年次	2	濵田のぞみ

科目の目標	犬の犬種や特徴、病気、栄養学、解剖学、行動心理などを学び、ドッグマスター検定の資格取得を目指す。
使用教科書	ドッグマスターハンドブック

月	学習内容	学習目標
4月	犬の犬種と特徴①	犬の種類や性格、特徴、原産国などを学ぶ。
5月	犬の犬種と特徴②	犬の種類や性格、特徴、原産国などを学ぶ。
6月	犬の解剖学①	犬の骨格や歯、犬種による耳や頭部、尾などの形や毛色などを
7月	犬の解剖学②	犬の感覚器や泌尿器、生殖器について理解する。
8月	夏季休暇	
9月	犬のトレーニングについて	オビディエンストレーニングやワーキングドッグについて理解する。 （研B(トレーニング)の授業でも学ぶ）
10月	犬の病理学と栄養学	様々な犬の病気について学び、健康管理をするうえで必要な栄
11月	犬の行動心理	行動心理について学び、日頃の犬との関わりに役立てる。
12月	グルーミングとトリミング	犬を清潔かつ健康に保つために必要なグルーミングとトリミングに
1月	動物愛護	動物愛護法や捨て犬問題について学ぶ。
2月	まとめと復習①	過去問を繰り返し解く
3月	まとめと復習② ※検定試験	過去問を繰り返し解く

学習評価

評価の観点 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物 （ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究D （動物飼養管理）	1年次	2	濵田のぞみ 北嶋　晴香 小倉　綾香 我妻花緒梨

科目の目標	生き物を扱うことへの自覚と責任を持つ 犬の体調管理と飼育環境の整備 授業で学んだことの復習（トレーニング・トリミング）を行い、スキルアップを目指す。
使用教科書	

月	学習内容	学習目標
4月		
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		

学習評価

評価の観点 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物 （ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究A （トリミング）	2年次	5	北嶋　晴香 西村優香 我妻花緒梨

科目の目標	犬のグルーミングの基本的なことブラッシング、ネイルカット、イヤーケア（耳毛抜き）をしっかりとできるように取り組み、その上で鋏、バリカンなどを用いてのカットの仕方など幅広く学習し、身につけてもらう。
使用教科書	美容道具一式、教材犬

月	学習内容	学習目標
4月	犬体の基礎知識 ・犬体名称、骨格名称 ・傷病名　処置法　予防法	犬の犬体名称を理解させ、美容で起こりうる怪我や病気、その処置法や予防法についての講義を行い、美容学の基礎知識を身につける。
5月	プードルサマーカットの手順 プードルサマーカットモデル	プードルサマーカット手順とカット技法を理解させる。
6月	ベーシック、足回り、背バリ プードルカット	ベーシック後、足回りを終えてからクリッパーを用いて「背バリ」を行い、クリッピング箇所を覚えながら行う。カットにおいては、2人体制でカットの流れを
7月	ベーシック、足回り、背バリ プードルカット　夏季集中実習	カットまでの一連の流れを2人体制で行う。
8月	夏季休暇	プードルカットまでの一連の流れを1人体制で行う
9月	ベーシック、足回り、背バリ プードルカット	カットまでの一連の流れを1～2人体制で行う。
10月	ベーシック、足回り、背バリ プードルカット	カットまでの一連の流れを1～2人体制で行う。
11月	ベーシック、足回り、背バリ プードルカット	カットまでの一連の流れを1～2人体制で行う。
12月	ベーシック、足回り、背バリ プードルカット　冬季集中実習	カットまでの一連の流れを1～2人体制で行い、作業時間を意識し、効率化を図りながら行う。
1月	ベーシック、足回り、背バリ プードルカット	カットまでの一連の流れを1～2人体制で行い、作業時間を意識し、効率化を図りながら行う。
2月	ベーシック、足回り、背バリ プードルカット	年間まとめ前として各自カットまでの一連の流れを1～2人体制で行い作業時間。
3月	まとめ	まとめとして各自カットまでの一連の流れを1～2人体制で行い作業時間、仕上がり内容を評価する。

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物 （ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	鋏やバリカンなどを用いる為、しっかりと集中して授業に取り組み怪我がないように取り組んでもらいたい。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究B （トレーニング）	2年次	4	濵田のぞみ 中　碧衣

科目の目標	オビディエンストレーニングの知識・技術を身に付けるとともに、身体障害者補助犬やアニマルセラピーについて学び、理解を深める。
使用教科書	訓練道具一式 教材犬

月	学習内容	学習目標
4月	オビディエンストレーニング（基礎）※復習	1年次に学んだことの復習
5月	オビディエンストレーニング（基礎） 身体障害者補助犬について①	身体障害者補助犬について学び、理解を深める。
6月	オビディエンストレーニング（基礎） 身体障害者補助犬について②	障害者補助犬（介助犬）のトレーニング方法について学ぶ。
7月	オビディエンストレーニング（基礎） ※夏季集中実習	ハンドリング方法の理解と実践
8月	夏季休暇	
9月	オビディエンストレーニング（基礎・応用） アニマルセラピーについて①	ハンドリング方法の理解と実践(検定対策) アニマルセラピーについて理解する。 セラピー現場での犬のコントロール方法を学ぶ①
10月	オビディエンストレーニング（基礎・応用） アニマルセラピーについて②	ハンドリング方法の理解と実践(検定対策) セラピー現場での犬のコントロール方法を学ぶ①
11月	オビディエンストレーニング（基礎・応用） アニマルセラピーについて③	ハンドリング方法の理解と実践(検定対策) アニマルセラピーについて理解する。 セラピー現場での犬のコントロール方法を学ぶ②
12月	オビディエンストレーニング（基礎・応用） ※冬季集中実習	ハンドリング方法の理解と実践(検定対策)
1月	オビディエンストレーニング（基礎・応用）	ハンドリング方法の理解と実践(検定対策)
2月	オビディエンストレーニング（基礎・応用）	ハンドリング方法の理解と実践(検定対策)
3月	オビディエンストレーニング（基礎・応用） ※検定試験	ハンドリング方法の理解と実践

学習評価

評価の観点 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物 （ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究D （動物飼養管理）	2年次	2	濵田のぞみ 北嶋　晴香 小倉　綾香 我妻花緒梨
科目の目標	生き物を扱うことへの自覚と責任を持つ 犬の体調管理と飼育環境の整備 授業で学んだことの復習（トレーニング・トリミング）を行い、スキルアップを目指す。		
使用教科書			

月	学習内容	学習目標
4月		
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		

学習評価

評価の観点 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物 （ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究A （トリミング）	3年次	5	小倉綾香 我妻花緒梨

科目の目標	犬のグルーミングをはじめ、さまざまな犬種に対応できるよう鋏、クリッパーの応用技術を身につける
使用教科書	トリマーのためのベーシックテクニック 緑書房 美容道具一式

月	学習内容	学習目標
4月	ベーシック、カッティング	2年次で学んだことを復習し、各項目を見つめ直していく
5月	ベーシック、カッティング	各項目を確認し、犬に負担を少なくすることを意識し、手順をしっかりと把握し要領よく進行していくことを学ぶ
6月	ベーシック、カッティング	1人で複数の犬を用い時間をかけずできるだけ犬の負担を少なくできるよう進め、技量と体力、工夫を身につける
7月	ベーシック、カッティング、夏季集中実習	を少なくし、技量と工夫を身につけ犬の体全体のバランスを見極める。
8月	夏季休暇	シェアウリーカットまでの一連の流れを1人体制で行う。
9月	ベーシック、カッティング	クックスやポメラニアンなど小型犬を複数対応できるよう技量と工夫を身につける
10月	ベーシック、カッティング リボン作り･付け	全体カットを行った上で、トップのアクセントとしてリボン付けを取り入れ耳の形によって付ける位置などを確認しラッピングの仕方をウィッグを使っ
11月	ベーシック、カッティング リボン作り･付け	全体カットを行った上で、トップのアクセントとしてリボン付けを取り入れ耳の形によって付ける位置などを確認しラッピングの仕方を実際に犬を使っ
12月	ベーシック、カッティング リボン作り･付け　冬季集中実習	総まとめに向けてカッティング、クリッピングの見直しを行う
1月	まとめ	基本カット、犬種に対応したカットを把握し、技量を身につけ犬の負担を少なくするために無駄のない対応ができるようカッティング、クリッピング法
2月		
3月		

学習評価

	関心･意欲･態度	思考･判断	表現･処理･技能	知識･理解	出席状況
試験 （実習）	―	10	10	10	―
授業の観察 （行動、発言、発表）	20	―	―	―	―
提出物･成果物 （ノート、作品等）	5	5	5	5	―
出席等	―	―	―	―	30
合計	25	15	15	15	30

履修にあたっての留意点	鋏やバリカンなどを用いる為、しっかりと集中して授業に取り組み怪我がないように取り組んでもらいたい。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究A （トレーニング）	3年次	4	濵田のぞみ

科目の目標	担当犬との信頼関係の構築 クリッカーを使用したトレーニング方法の理解と、訓練技術の習得 アニマルセラピーの必要性について理解する
使用教科書	訓練道具一式 教材犬

月	学習内容	学習目標
4月	クリッカートレーニングの理論について① 実践トレーニング（クリッカー） アニマルセラピーについて①	ハンドリング方法の理解と実践 アニマルセラピーの必要性について理解し、セラピードッグのコントロール方法を身に付ける。
5月	クリッカートレーニングの理論について② 実践トレーニング（クリッカー・オビディエンス） アニマルセラピーについて②	ハンドリング方法の理解と実践 アニマルセラピーの必要性について理解し、セラピードッグのコントロール方法を身に付ける。
6月	クリッカートレーニングの理論について③ 実践トレーニング（クリッカー・オビディエンス） ※セラピー実習①	ハンドリング方法の理解と実践 セラピー実習に向けた取り組み
7月	実践トレーニング（クリッカー・オビディエンス） ※夏期集中実習	ハンドリング方法の理解と実践
8月	夏季休暇	
9月	実践トレーニング（クリッカー・オビディエンス） ※セラピー実習②	ハンドリング方法の理解と実践(検定対策) セラピー実習に向けた取り組み
10月	実践トレーニング（クリッカー・オビディエンス） ※セラピー実習③	ハンドリング方法の理解と実践(検定対策) セラピー実習に向けた取り組み
11月	実践トレーニング（クリッカー・オビディエンス） ※セラピー実習④	ハンドリング方法の理解と実践(検定対策) セラピー実習に向けた取り組み
12月	実践トレーニング（クリッカー・オビディエンス） ※冬季集中実習	ハンドリング方法の理解と実践(検定対策)
1月	実践トレーニング（クリッカー・オビディエンス） まとめ	ハンドリング方法の理解と実践(検定対策)
2月	検定試験	
3月		

学習評価

	関心･意欲･態度	思考･判断	表現･処理･技能	知識･理解	出席状況
試験 （実習）	―	10	10	10	―
授業の観察 （行動、発言、発表）	20	―	―	―	―
提出物･成果物 （ノート、作品等）	5	5	5	5	―
出席等	―	―	―	―	30
合計	25	15	15	15	30

履修にあたっての留意点	

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究B （トリミング）	3年次	5	北嶋　晴香 我妻花緒梨

科目の目標	犬のグルーミングをはじめ、さまざまな犬種に対応できるよう鋏、クリッパーの応用技術を身につける(座学・実技)
使用教科書	トリマーのためのベーシックテクニック 緑書房 美容道具一式

月	学習内容	学習目標
4月	ベーシック、カッティング	2年次で学んだことを復習し、各項目を見つめ直していく
5月	ベーシック、カッティング	各項目を確認し、犬に負担を少なくすることを意識し、手順をしっかりと把握し要領よく進行していくことを学ぶ
6月	ベーシック、カッティング	1人で複数の犬を用い時間をかけずできるだけ犬の負担を少なくできるよう進め、技量と体力、工夫を身につける
7月	ベーシック、カッティング、 夏季集中実習	を少なくし、技量と工夫を身につけ犬の体全体のバランスを見極める。
8月	夏季休業日	シェアリサーカットまでの一連の流れを1人体制で行う。
9月	ベーシック、カッティング	クックスやポメラニアンなど小型犬を複数対応できるよう技量と工夫を身につける
10月	ベーシック、カッティング リボン作り・付け	全体カットを行った上で、トップのアクセントとしてリボン付けを取り入れ耳の形によって付ける位置などを確認しラッピングの仕方をウィッグを使っ
11月	ベーシック、カッティング リボン作り・付け	全体カットを行った上で、トップのアクセントとしてリボン付けを取り入れ耳の形によって付ける位置などを確認しラッピングの仕方を実際に犬を使っ
12月	ベーシック、カッティング リボン作り・付け　冬季集中実習	総まとめに向けてカッティング、クリッピングの見直しを行う
1月	まとめ	基本カット、犬種に対応したカットを把握し、技量を身につけ犬の負担を少なくするために無駄のない対応ができるようカッティング、クリッピング法
2月		
3月		

学習評価

	関心・意欲・態度	思考・判断	表現・処理・技能	知識・理解	出席状況
試験 （実習）	—	10	10	10	—
授業の観察 （行動、発言、発表）	20	—	—	—	—
提出物・成果物 （ノート、作品等）	5	5	5	5	—
出席等	—	—	—	—	30
合計	25	15	15	15	30

履修にあたっての留意点	鋏やバリカンなどを用いる為、しっかりと集中して授業に取り組み怪我がないように取り組んでもらいたい。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究B （トレーニング）	3年次	5	濵田のぞみ

科目の目標	担当犬との信頼関係の構築 クリッカーを使用したトレーニング方法の理解と、訓練技術の習得(座学・実技) アニマルセラピーの必要性について理解する(座学・実技)
使用教科書	訓練道具一式 教材犬

月	学習内容	学習目標
4月	クリッカートレーニングの理論について① 実践トレーニング(クリッカー) アニマルセラピーについて①	ハンドリング方法の理解と実践 アニマルセラピーの必要性について理解し、セラピードッグのコントロール方法を身に付ける。
5月	クリッカートレーニングの理論について② 実践トレーニング(クリッカー・オビディエンス) アニマルセラピーについて②	ハンドリング方法の理解と実践 アニマルセラピーの必要性について理解し、セラピードッグのコントロール方法を身に付ける。
6月	クリッカートレーニングの理論について③ 実践トレーニング(クリッカー・オビディエンス) ※セラピー実習①	ハンドリング方法の理解と実践 セラピー実習に向けた取り組み
7月	実践トレーニング(クリッカー・オビディエンス) ※夏季集中実習	ハンドリング方法の理解と実践
8月	夏季休暇	
9月	実践トレーニング(クリッカー・オビディエンス) ※セラピー実習②	ハンドリング方法の理解と実践(検定対策) セラピー実習に向けた取り組み
10月	実践トレーニング(クリッカー・オビディエンス) ※セラピー実習③	ハンドリング方法の理解と実践(検定対策) セラピー実習に向けた取り組み
11月	実践トレーニング(クリッカー・オビディエンス) ※セラピー実習④	ハンドリング方法の理解と実践(検定対策) セラピー実習に向けた取り組み
12月	実践トレーニング(クリッカー・オビディエンス) ※冬季集中実習	ハンドリング方法の理解と実践(検定対策)
1月	実践トレーニング(クリッカー・オビディエンス) まとめ	ハンドリング方法の理解と実践(検定対策)
2月	検定試験	
3月		

学習評価

	関心・意欲・態度	思考・判断	表現・処理・技能	知識・理解	出席状況
試験 （実習）	―	10	10	10	―
授業の観察 （行動、発言、発表）	20	―	―	―	―
提出物・成果物 （ノート、作品等）	5	5	5	5	―
出席等	―	―	―	―	30
合計	25	15	15	15	30

履修にあたっての留意点	

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究D （動物飼養管理）	3年次	2	濵田のぞみ 北嶋　晴香 小倉　綾香 我妻花緒梨
科目の目標	生き物を扱うことへの自覚と責任を持つ 犬の体調管理と飼育環境の整備 授業で学んだことの復習（トレーニング・トリミング）を行い、スキルアップを目指す。		
使用教科書			

月	学習内容	学習目標
4月		
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		
3月		

学習評価

	関心・意欲・態度	思考・判断	表現・処理・技能	知識・理解	出席状況
試験 （実習）	―	10	10	10	―
授業の観察 （行動、発言、発表）	20	―	―	―	―
提出物・成果物 （ノート、作品等）	5	5	5	5	―
出席等	―	―	―	―	30
合計	25	15	15	15	30

履修にあたっての留意点	

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究A	1年次	2	服部　智貴

科目の目標	プログラミングにおける基本的な考え方、記述方法を学びます。 JavaScript、HTML、VBA(Excel)の基本～を中心に実習します。 プログラミング検定、情報デザイン(Webページ)検定にも挑戦します。
使用教科書	Monacaで学ぶアプリ制作入門～HTML×CSS×JavaScript編～ パソコン、MonacaEducation(スタンダード)

月	学習内容	学習目標
4月	【VBA入門】 ・プログラミングの基本構造を知る。	アプリケーションソフトの基本操作を学び、VBAについての理解を深める。
5月	アプリ開発の基本	モバイルアプリ開発についての基本的な工程の理解。 アプリ統合開発環境についての理解を深める
6月	HTML & CSS入門	HTMLの基本及び構造化のメリットを理化する。 CSSを理解し、デザインの基本を理解する。
7月	JavaScript入門 プログラミング技能検定①	モバイルアプリの画面上の部品操作の構造を理化する。 情報デザイン検定の受験を通じて、HTMLの全t増を理解する。
8月		
9月	条件分岐・関数	ある条件に応じて、その後に行われる処理についての理解。 コードを切り分ける為の手段として関数の構築を理解する。
10月	イベント	ユーザの操作を受けてからのの処理について知る。
11月	DOM	プログラミング言語からアクセスできるようにするためのAPIについて理解する。
12月	フォーム プログラミング技能検定②	テキストボックス、プルダウンメニューなどの入力補助機能の役割を理解する。
1月	いろいろな演算子	四則演算子、論理演算子、複合代入演算子の役割を理解する。
2月	配列 プログラミング技能検定③	「Arrayオブジェクト」を活用することで、配列の作成・追加・初期化・削除・検索の活用について理解する。
3月	まとめ	一年間通して学習した内容について復習する。

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物 （ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	・パソコンコースのみの開講です。 ・各種検定試験の受験は予定であり、変更もあります。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究B	1年次	2	服部　智貴

科目の目標	デザインに関わるアプリケーションソフトの特性を知ると共に、基本的な知識や操作方法の習得を目指す。
使用教科書	パソコン、画像・動画編集ソフト など

月	学習内容	学習目標
4月	Canvaの使い方	画像編集ソフトの基本的な操作を学ぶ。
5月	画像編集① ドローン	画像編集ソフトの基本的な操作を学ぶ。
6月	画像編集②(熱中症対策ポスター作成) ドローンでの撮影	画像動画編集ソフトの基本的な操作を学ぶ。
7月	画像編集③(夏ポスター作成) ドローンでの撮影	画像編集ソフトの基本的な操作を学ぶ。 動画編集の仕方を学ぶ
8月		
9月	学習内容の復習 画像編集④	画像編集ソフトで編集し、作品を作成する。
10月	画像編集⑤(文化祭ポスター作成) 動画編集（文化祭）	画像編集ソフトで編集し、作品を作成する。
11月	画像編集⑥(コンテスト作品) 動画編集(冬動画)	動画編集ソフトで編集し、作品を作成する。
12月	画像編集⑦(コンテスト作品) 動画編集(冬動画)	動画編集ソフトで編集し、作品を作成する。
1月	画像編集⑧(コンテスト作品) 動画編集(春動画)	動画編集ソフトで編集し、作品を作成する。
2月	画像編集⑨(コンテスト作品) 動画編集(春動画)	動画編集ソフトで編集し、作品を作成する。
3月	画像編集⑩(コンテスト作品) 動画編集(春動画)	動画編集ソフトで編集し、作品を作成する。

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物 （ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	パソコンコースのみの開講です。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究C	1年次	2	奥野　翔太

科目の目標	アプリケーションソフトの特性を知ると共に、基本的な知識や操作方法を習得し、今後の学校生活に有用な日本語ワープロソフトの利用に慣れる。また各級の日本語ワープロ検定試験や文書デザイン検定を受験し、資格取得を目指す。
使用教科書	パソコン、Word 2016、しっかり学ぶWord標準テキスト など

月	学習内容	学習目標
4月	【Word入門】	アプリケーションソフトの基本操作を学び、Wordについての理解を深める。
5月	【Word入門】	文章入力の基本操作について学習する。
6月	【Word入門】	Wordの編集機能と表の作成・編集の基本操作について学習する。
7月	【日本語ワープロ検定の復習】	受験した検定試験に関する基本操作についての復習を行う。
8月		
9月	【Word基本】	Wordの編集機能と表の作成・編集の基本操作について学習する。
10月	【Word基本】	Wordの図形描画機能の基本操作について学習する。
11月	【Word基本】	Wordのクリップアート機能の基本操作について学習する。
12月	【文書デザイン検定の復習】	受験した検定試験に関する基本操作についての復習を行う。
1月	【Word応用】	Wordのグラフ挿入の基本操作について学習する。
2月	【Word応用】	Wordの差し込み印刷やDTP機能の基本操作について学習する。
3月	まとめ	一年間通して学習した内容について復習する。

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物（ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	パソコンコースのみの開講です。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究D	1年次	2	奥野　翔太

科目の目標	アプリケーションソフトの特性を知ると共に、基本的な知識や操作方法を習得し、今後の学校生活に有用な表計算ソフトやプレゼンテーションソフトの利用に慣れる。また各級の表計算検定試験やプレゼンテーション検定試験を受験し、資格取得を目指す。
使用教科書	パソコン、Excel 2016、PowerPoint2016など

月	学習内容	学習目標
4月	【Excel入門】	アプリケーションソフトの基本操作を学び、Wordについての理解を深める。
5月	【Excel基本】	Excelの編集機能と表の作成・編集の基本操作について学習する。
6月	【Excel応用】	Excelの編集機能と表の作成・編集の基本操作について学習する。
7月	【表計算検定の復習】	受験した検定試験に関する基本操作についての復習を行う。
8月		
9月	【PowerPoint入門】	アプリケーションソフトの基本操作を学び、Wordについての理解を深める。
10月	【PowerPoint基本】	PowerPointの編集機能と編集の基本操作について学習する。
11月	【PowerPoint応用】	PowerPointのグラフや動画の挿入、アニメーションの順序変更等操作について学
12月	【プレゼンテーション検定の復習】	受験した検定試験に関する基本操作についての復習を行う。
1月	【Excel復習】	Excelの基本操作について復習を行なう。
2月	【PowerPoint復習】	PowerPointの基本操作について復習を行なう。
3月	まとめ	一年間通して学習した内容について復習する。

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物（ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	パソコンコースのみの開講です。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究A	2年次	2	奥野　翔太

科目の目標	RPGツクールMVを使うことで、難しいプログラミング作業を省略しながら、イメージをゲームにできる達成感を持たせ、ゲーム作成の楽しさを知る。
使用教科書	パソコン、RPGツクールVX

月	学習内容	学習目標
4月	RPGツクールの基本操作	ゲーム作成の基礎を学ぶ。
5月	RPGツクールの基本操作	ゲーム作成の基礎を学ぶ。
6月	RPGツクールの基本操作	ゲーム作成の基礎を学ぶ。
7月	RPGツクールの基本操作	ゲーム作成の基礎を学ぶ。
8月		
9月	シナリオ作成	シナリオの作成法を学ぶ
10月	ゲーム作成	実際にゲームを作成する
11月	ゲーム作成	実際にゲームを作成する
12月	ゲーム作成	実際にゲームを作成する
1月	ゲーム作成	ぷよぷよの理論を学ぶ
2月	ゲーム作成	実際にぷよぷよを作成する
3月	ゲーム作成	実際にぷよぷよを作成する

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物（ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	パソコンコースのみの開講です。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究B	2年次	2	服部　智貴

科目の目標	デザインに関わるアプリケーションソフトの特性を知ると共に、基本的な知識や操作方法の習得を目指す。
使用教科書	パソコン、画像･動画編集ソフト など

月	学習内容	学習目標
4月	Canvaの使い方	画像編集ソフトの基本的な操作を学ぶ。
5月	動画編集①	画像編集ソフトの基本的な操作を学ぶ。
6月	動画編集②	画像動画編集ソフトの基本的な操作を学ぶ。
7月	動画編集③（体育祭）	画像編集ソフトの基本的な操作を学ぶ。 動画編集の仕方を学ぶ
8月		
9月	学習内容の復習 動画編集④（文化祭）	画像編集ソフトで編集し、作品を作成する。
10月	動画編集（文化祭）	画像編集ソフトで編集し、作品を作成する。
11月	動画編集(冬動画)	動画編集ソフトで編集し、作品を作成する。
12月	動画編集(冬動画)	動画編集ソフトで編集し、作品を作成する。
1月	動画編集(春動画)	動画編集ソフトで編集し、作品を作成する。
2月	動画編集(春動画)	動画編集ソフトで編集し、作品を作成する。
3月	動画編集(春動画)	動画編集ソフトで編集し、作品を作成する。

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物･成果物（ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	パソコンコースのみの開講です。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究C	2年次	2	松井　大

科目の目標	デザインに関わるアプリケーションソフトの特性を知ると共に、基本的な知識や操作方法の習得を目指す。
使用教科書	パソコン、CLIP STUDIO PAINTなど

月	学習内容	学習目標
4月	CLIP STUDIO PAINT	CLIP STUDIO PAINTを使用し、イラストを創造する
5月	CLIP STUDIO PAINT	CLIP STUDIO PAINTを使用し、イラストを創造する
6月	CLIP STUDIO PAINT	CLIP STUDIO PAINTを使用し、イラストを創造する
7月	CLIP STUDIO PAINT	CLIP STUDIO PAINTを使用し、イラストを創造する
8月		
9月	CLIP STUDIO PAINT	CLIP STUDIO PAINTを使用し、イラストを創造する
10月	CLIP STUDIO PAINT	CLIP STUDIO PAINTを使用し、イラストを創造する
11月	CLIP STUDIO PAINT	CLIP STUDIO PAINTを使用し、イラストを創造する
12月	CLIP STUDIO PAINT	CLIP STUDIO PAINTを使用し、イラストを創造する
1月	CLIP STUDIO PAINT	CLIP STUDIO PAINTを使用し、イラストを創造する
2月	CLIP STUDIO PAINT	CLIP STUDIO PAINTを使用し、イラストを創造する
3月	CLIP STUDIO PAINT	CLIP STUDIO PAINTを使用し、イラストを創造する

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物（ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	パソコンコースのみの開講です。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究D	2年次	2	奥野　翔太

科目の目標	様々な検定取得を通して、アプリケーションソフトの応用的な操作方法を習得していく。また、コンピュータ関係の専門的な知識の必要性を理解し、基礎的な知識を習得する。 検定4種類以上の取得△　1級3種目○　1級5種目◎
使用教科書	パソコン、Word 2013、Excel 2013、PowerPoint 2013など

月	学習内容	学習目標
4月	1学年の復習	
5月	【日本語ワープロ検定】 【情報処理技能検定(表計算)】 【プレゼンテーション作成検定】 ・Word,Excel,PowerPointの操作技能に関する検定の対策	受験する検定を定め、その検定合格に向けて、試験対策を行っていく。
6月	【日本語ワープロ検定】 【情報処理技能検定(表計算)】 【プレゼンテーション作成検定】 ・Word,Excel,PowerPointの操作技能に関する検定の対策	受験する検定を定め、その検定合格に向けて、試験対策を行っていく。
7月	【日本語ワープロ検定】 【情報処理技能検定(表計算)】 【プレゼンテーション作成検定】 ・Word,Excel,PowerPointの操作技能に関する検定の対策	受験する検定を定め、その検定合格に向けて、試験対策を行っていく。
8月		
9月	【日本語ワープロ検定】 【情報処理技能検定(表計算)】 【プレゼンテーション作成検定】 ・Word,Excel,PowerPointの操作技能に関する検定の対策	受験する検定を定め、その検定合格に向けて、試験対策を行っていく。
10月	【日本語ワープロ検定】 【情報処理技能検定(表計算)】 【プレゼンテーション作成検定】 ・Word,Excel,PowerPointの操作技能に関する検定の対策	受験する検定を定め、その検定合格に向けて、試験対策を行っていく。
11月	【日本語ワープロ検定】 【情報処理技能検定(表計算)】 【プレゼンテーション作成検定】 ・Word,Excel,PowerPointの操作技能に関する検定の対策	受験する検定を定め、その検定合格に向けて、試験対策を行っていく。
12月	【日本語ワープロ検定】 【情報処理技能検定(表計算)】 【プレゼンテーション作成検定】 ・Word,Excel,PowerPointの操作技能に関する検定の対策	受験する検定を定め、その検定合格に向けて、試験対策を行っていく。
1月	【日本語ワープロ検定】 【情報処理技能検定(表計算)】 【プレゼンテーション作成検定】 ・Word,Excel,PowerPointの操作技能に関する検定の対策	受験する検定を定め、その検定合格に向けて、試験対策を行っていく。
2月	各種検定試験の復習	各種試験に関する基本操作について復習する。
3月	各種検定試験の復習	各種試験に関する基本操作について復習する。

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物（ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	パソコンコースのみの開講です。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究A	3年次	5	松井　大

科目の目標	RPGツクールMVを使うことで、難しいプログラミング作業を省略しながら、イメージをゲームにできる達成感を持たせ、ゲーム作成の楽しさを知る。
使用教科書	パソコン、RPGツクールVX

月	学習内容	学習目標
4月	RPGツクールの基本操作	ゲーム作成の基礎を学ぶ。
5月	RPGツクールの基本操作	ゲーム作成の基礎を学ぶ。
6月	RPGツクールの基本操作	ゲーム作成の基礎を学ぶ。
7月	RPGツクールの基本操作	ゲーム作成の基礎を学ぶ。
8月		
9月	シナリオ作成	シナリオの作成法を学ぶ
10月	ゲーム作成	実際にゲームを作成する
11月	ゲーム作成	実際にゲームを作成する
12月	ゲーム作成	実際にゲームを作成する
1月	成果発表	1年間の総まとめ
2月		
3月		

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物（ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	パソコンコースのみの開講です。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究B	3年次	2	服部　智貴

科目の目標	デザインに関わるアプリケーションソフトの特性を知ると共に、基本的な知識や操作方法の習得を目指す。
使用教科書	パソコン、画像･動画編集ソフト など

月	学習内容	学習目標
4月	Canvaの使い方	画像編集ソフトの基本的な操作を学ぶ。
5月	画像･動画編集① ドローン	画像編集ソフトの基本的な操作を学ぶ。
6月	画像･動画編集② ドローン	画像動画編集ソフトの基本的な操作を学ぶ。
7月	画像･動画編集③ ドローン	画像編集ソフトの基本的な操作を学ぶ。 動画編集の仕方を学ぶ
8月		
9月	学習内容の復習 画像･動画編集④ ドローン	画像編集ソフトで編集し、作品を作成する。
10月	画像･動画編集⑤ ドローン	画像編集ソフトで編集し、作品を作成する。
11月	画像･動画編集⑥ ドローン	動画編集ソフトで編集し、作品を作成する。
12月	画像･動画編集⑦ ドローン	動画編集ソフトで編集し、作品を作成する。
1月	成果発表	1年間の総まとめ
2月		
3月		

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物･成果物 （ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	パソコンコースのみの開講です。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究A	3年次	2	奥野　翔太

科目の目標	デザインに関わるアプリケーションソフトの特性を知ると共に、基本的な知識や操作方法の習得を目指す。
使用教科書	パソコン、CLIP STUDIO PAINTなど

月	学習内容	学習目標
4月	CLIP STUDIO PAINT	CLIP STUDIO PAINTを使用し、イラストを創造する
5月	CLIP STUDIO PAINT	CLIP STUDIO PAINTを使用し、イラストを創造する
6月	CLIP STUDIO PAINT	CLIP STUDIO PAINTを使用し、イラストを創造する
7月	CLIP STUDIO PAINT	CLIP STUDIO PAINTを使用し、イラストを創造する
8月		
9月	CLIP STUDIO PAINT	CLIP STUDIO PAINTを使用し、イラストを創造する
10月	CLIP STUDIO PAINT	CLIP STUDIO PAINTを使用し、イラストを創造する
11月	CLIP STUDIO PAINT	CLIP STUDIO PAINTを使用し、イラストを創造する
12月	CLIP STUDIO PAINT	CLIP STUDIO PAINTを使用し、イラストを創造する
1月	成果発表	1年間の総まとめ
2月		
3月		

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識･技能		思考･判断･表現		関心･意欲･態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物･成果物（ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	パソコンコースのみの開講です。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
課題研究D	3年次	2	奥野　翔太

科目の目標	様々な検定取得を通して、アプリケーションソフトの応用的な操作方法を習得していく。また、コンピュータ関係の専門的な知識の必要性を理解し、基礎的な知識を習得する。 検定4種類以上の取得△　1級3種目○　1級5種目◎
使用教科書	パソコン、Word 2013、Excel 2013、PowerPoint 2013など

月	学習内容	学習目標
4月	1学年の復習	
5月	【日本語ワープロ検定】 【情報処理技能検定(表計算)】 【プレゼンテーション作成検定】 ・Word,Excel,PowerPointの操作技能に関する検定の対策	受験する検定を定め、その検定合格に向けて、試験対策を行っていく。
6月	【日本語ワープロ検定】 【情報処理技能検定(表計算)】 【プレゼンテーション作成検定】 ・Word,Excel,PowerPointの操作技能に関する検定の対策	受験する検定を定め、その検定合格に向けて、試験対策を行っていく。
7月	【日本語ワープロ検定】 【情報処理技能検定(表計算)】 【プレゼンテーション作成検定】 ・Word,Excel,PowerPointの操作技能に関する検定の対策	受験する検定を定め、その検定合格に向けて、試験対策を行っていく。
8月		
9月	【日本語ワープロ検定】 【情報処理技能検定(表計算)】 【プレゼンテーション作成検定】 ・Word,Excel,PowerPointの操作技能に関する検定の対策	受験する検定を定め、その検定合格に向けて、試験対策を行っていく。
10月	【日本語ワープロ検定】 【情報処理技能検定(表計算)】 【プレゼンテーション作成検定】 ・Word,Excel,PowerPointの操作技能に関する検定の対策	受験する検定を定め、その検定合格に向けて、試験対策を行っていく。
11月	【日本語ワープロ検定】 【情報処理技能検定(表計算)】 【プレゼンテーション作成検定】 ・Word,Excel,PowerPointの操作技能に関する検定の対策	受験する検定を定め、その検定合格に向けて、試験対策を行っていく。
12月	【日本語ワープロ検定】 【情報処理技能検定(表計算)】 【プレゼンテーション作成検定】 ・Word,Excel,PowerPointの操作技能に関する検定の対策	受験する検定を定め、その検定合格に向けて、試験対策を行っていく。
1月	【日本語ワープロ検定】 【情報処理技能検定(表計算)】 【プレゼンテーション作成検定】 ・Word,Excel,PowerPointの操作技能に関する検定の対策	受験する検定を定め、その検定合格に向けて、試験対策を行っていく。
2月		
3月		

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	30	15	30	9	50	10	34
提出物・成果物（ノート、作品等）	70	35	70	21	50	10	66
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	パソコンコースのみの開講です。定期考査において、実技テストを行なう。実技テストの内容は、情報処理検定(ワープロ検定・表計算・文書デザイン・プレゼンテーションのうち教員が決めた準2級以上の検定)を実施する。単位認定試験については、それぞれが選択したものとし、実施時間は、検定同様に30分とする。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
日本語ⅠA	1年次	8	加納

科目の目標	・主に文法の力を伸ばしながら、初級の日本語(JLPT N4レベル)を総合的に身につける ・相手の言いたいことを理解することができるようになる ・自分が伝えたいことを表現することができるようになる ※本科目は、日本語ⅠBと連携しながら、会話も扱う
使用教科書	主教材:『文化　初級日本語Ⅰ』　『文化　初級日本語Ⅱ』 副教材:『文化　初級日本語Ⅰ　練習問題集』　『文化　初級日本語Ⅱ　練習問題集』

月	学習内容	学習目標
4月	『文化　初級日本語Ⅰ』 1課～3課	・時の表現(時間、曜日、月日)を使って、銀行、店などの営業時間や学校のスケジュールについて話せる。 ・動詞のます形(現在、過去)を学習し、自分の行動について話せる。 ・疑問詞(何、どこ、いつ、何時)を学習し、質問したり、答えたりできる。 ・名前のわからない物、何かわからない物について質問したり、答えたりできる。 ・誰の物かわからない物について、その持ち主を尋ねたり、答えたりできる。 ・指示詞(これ、それ、あれ)を使って、物の持ち主を尋ねたり、答えたりできる。
5月	『文化　初級日本語Ⅰ』 4課～7課	・形容詞と指示詞を使って身近にある物の持ち主を尋ねたり、答えたりできる。 ・形容詞を使って、物の特徴や様子を質問したり、答えたりできる。 ・場所や位置を表す表現を使って事物の存在、所在が説明できる。 ・自分の趣味や嗜好について話せる。 ・自分の身の回りの物の形状が説明できる。
6月	『文化　初級日本語Ⅰ』 8課～11課	・形容詞と名詞の過去形を使って、過去の出来事の様子や感想を述べることができる。 ・形容詞の接続「～くて」「～で」、逆接の表現「～が」を使って、物の様子や感想を述べることができる。 ・動詞のて形を使って、依頼したり許可を求めたりできる。 ・学校の規則や簡単な機械の使い方について質問できる。また、その説明を聞いて理解できる。 ・行動の順序を表すて形を使って、ある日の自分の行動が話せる。 ・乗り物を使い、目的地まで行く方法が説明できる。 ・動作の進行を表す「～ている」を使い、誰が今、何をしているか話せる。 ・自己紹介ができる。家族を表す言葉を学習し、家族の紹介ができる。 ・自分の進路の希望について話せる。
7月	『文化　初級日本語Ⅰ』 12課, 13課	・形容詞の変化の形「～なる」を使って、物事の変化について述べられる。 ・基本体を学習し、それを使って簡単なメモが取れる。 ・自分をとりまく生活環境についての感想や意見を述べることができる。 ・簡単なインタビューをし、発表できる。
8月	夏季休暇	
9月	『文化　初級日本語Ⅰ』 14課～17課	・基本体過去を学習し、基本体を使った日記などまとまった文章を読んで理解し、書くことができる。 ・比較表現を使って身近なものについて話せる。 ・病院で自分の症状が説明できる。 ・医師や看護師、薬剤師の簡単な説明が理解できる。 ・可能形を使って、能力や状況を説明したり、質問したりできる。 ・ある事柄について自分の経験の有無が話せる。
10月	『文化　初級日本語Ⅰ』 18課 『文化　初級日本語Ⅱ』 19課～20課	・人を誘うことができる。また、誘いに応じたり、断ったりできる。 ・伝聞表現を使い、人に情報が伝えられる。 ・人の服装について、簡単に述べることができる。 ・不注意などで起こってしまったことが説明できる。 ・目的地への行き方を聞いて理解できる。 ・意志の表現を使って予定や計画を述べることができる。 ・卒業後の進路について質問に答えたり、説明したりできる。

11月	『文化　初級日本語Ⅱ』　21課～24課	・ホームステイなどで日本の家庭を訪問した時のマナーを知る。 ・「～たほうがいい」「～なくてもいい」などを使って、アドバイスをしたり、求めたりできる。 ・「～そう」を使って、物の外見からの印象や様子から判断したことなどを述べることができる。 ・第三者の希望や願望が相手に伝えられる。 ・過去と現在で変化した事柄について述べることができる。 ・「あげる」「もらう」「くれる」を使って物のやりとりが表現できる。 ・フォーマル、インフォーマルの使い分けを理解する。 ・インフォーマルな表現を使って友達を誘うなどの簡単な会話ができる。
12月	『文化　初級日本語Ⅱ』 25課	・自動詞と他動詞の基本的な使い分けを理解し、適切な場面で使うことができる。
1月	『文化　初級日本語Ⅱ』 26課～29課	・物事の状態を表す「～ている」を使って、相手に注意を促すことができる。 ・引っ越しの準備や手続きなどを知る。 ・「～ように」「～ておく」を使って、何かをするための準備について、説明やアドバイスができる。 ・日本の学校に進学するための準備（オープンキャンパスなど）について知る ・面接試験について知る ・授受表現を使って、誰かにしてもらったことについて述べることができる ・授受表現を使って、人から受けた好意に対してお礼を述べることができる ・親疎の関係、社会的立場での上下関係を理解し、物や好意の授受について待遇表現を使って話すことができる ・「～ようにしている」を使って、日頃努力していることが話せる
2月	『文化　初級日本語Ⅱ』 31課～34課	・「～ようだ／みたいだ」を使って、根拠をもとにした主観的な判断を述べることができる。 ・受身形を使って、迷惑に感じた体験などが話せる。 ・理由を述べて、適切に謝ることができる。 ・受身形を使って述べられた物についての説明が理解できる。 ・ある人物の生い立ちに関するインタビューを聞いて理解できる。 ・目上の人が目下の人に命令や指示をして何かをさせる行為を使役形を使って説明できる。 ・「～たらどうですか」を使って、提案やアドバイスができる。 ・条件を表す表現を「～なら」を使って、アドバイスができる。
3月	『文化　初級日本語Ⅰ』 『文化　初級日本語Ⅱ』　まとめ、（30課）	・これまでに学んだことを復習し、表現することができる。

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	―	―	―	―	50	10	10
提出物・成果物（ノート、作品等）	20	10	20	6	50	10	26
定期試験 小テスト	80	40	80	24	―	―	64
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
日本語ⅠB	1年次	5	田中

科目の目標	・主に語彙の力を伸ばしながら、初級の日本語(JLPT N4レベル)を総合的に身につける ・相手の言いたいことを理解することができるようになる ・自分が伝えたいことを表現することができるようになる ※本科目は、日本語ⅠAと連携しながら、聴解・読解・作文も扱う
使用教科書	主教材:『文化　初級日本語Ⅰ』　　『文化　初級日本語Ⅱ』 副教材:『文化　初級日本語Ⅰ　練習問題集』『文化　初級日本語Ⅱ　練習問題集』

月	学習内容	学習目標
4月	『文化　初級日本語Ⅰ』 1課～3課	・簡単な自己紹介ができる。 ・時の表現(時間、曜日、月日)を使って、銀行、店などの営業時間や学校のスケジュールについて話せる。 ・動詞のます形(現在、過去)を学習し、自分の行動について話せる。 ・疑問詞(何、どこ、いつ、何時)を学習し、質問したり、答えたりできる。 ・名前のわからない物、何かわからない物について質問したり、答えたりできる。 ・誰の物かわからない物について、その持ち主を尋ねたり、答えたりできる。 ・指示詞(これ、それ、あれ)を使って、物の持ち主を尋ねたり、答えたりできる。
5月	『文化　初級日本語Ⅰ』 4課～7課	・形容詞と指示詞を使って身近にある物の持ち主を尋ねたり、答えたりできる。 ・形容詞を使って、物の特徴や様子を質問したり、答えたりできる。 ・場所や位置を表す表現を使って事物の存在、所在が説明できる。 ・自分の趣味や嗜好について話せる。 ・自分の身の回りの物の形状が説明できる。
6月	『文化　初級日本語Ⅰ』 8課～11課	・形容詞と名詞の過去形を使って、過去の出来事の様子や感想を述べることができる。 ・形容詞の接続「～くて」「～で」、逆接の表現「～が」を使って、物の様子や感想を述べることができる。 ・動詞の て形を使って、依頼したり許可を求めたりできる。 ・学校の規則や簡単な機械の使い方について質問できる。また、その説明を聞いて理解できる。 ・行動の順序を表す て形を使って、ある日の自分の行動が話せる。 ・乗り物を使い、目的地まで行く方法が説明できる。 ・動作の進行を表す「～ている」を使い、誰が今、何をしているか話せる。 ・自己紹介ができる。家族を表す言葉を学習し、家族の紹介ができる。 ・自分の進路の希望について話せる。
7月	『文化　初級日本語Ⅰ』 12課，13課	・形容詞の変化の形「～なる」を使って、物事の変化について述べられる。 ・基本体を学習し、それを使って簡単なメモが取れる。 ・自分をとりま く生活環境についての感想や意見を述べることができる。 ・簡単なインタビューをし、発表できる。
8月	夏季休暇	
9月	『文化　初級日本語Ⅰ』 14課～17課	・基本体過去を学習し、基本体を使った日記などまとまった文章を読んで理解し、書くことができる。 ・比較表現を使って身近なものについて話せる。 ・病院で自分の症状が説明できる。 ・医師や看護師、薬剤師の簡単な説明が理解できる。 ・可能形を使って、能力や状況を説明したり、質問したりできる。 ・ある事柄について自分の経験の有無が話せる。
10月	『文化　初級日本語Ⅰ』 18課 『文化　初級日本語Ⅱ』 19課～20課	・人を誘うことができる。また、誘いに応じたり、断ったりできる。 ・伝聞表現を使い、人に情報が伝えられる。 ・人の服装について、簡単に述べることができる。 ・不注意などで起こってしまったことが説明できる。 ・目的地への行き方を聞いて理解できる。 ・意志の表現を使って予定や計画を述べることができる。 ・卒業後の進路について質問に答えたり、説明したりできる。
11月	『文化　初級日本語Ⅱ』　21課～24課	・ホームステイなどで日本の家庭を訪問した時のマナーを知る。 ・「～たほうがいい」「～なくてもいい」などを使って、アドバイスをしたり、求めたりできる。 ・「～そう」を使って、物の外見からの印象や様子から判断したことなどを述べることができる。 ・第三者の希望や願望が相手に伝えられる。 ・過去と現在で変化した事柄について述べることができる。 ・「あげる」「もらう」「くれる」を使って物のやりとりが表現できる。 ・フォーマル、インフォーマルの使い分けを理解する。 ・インフォーマルな表現を使って友達を誘うなどの簡単な会話ができる。
12月	『文化　初級日本語Ⅱ』 25課	・自動詞と他動詞の基本的な使い分けを理解し、適切な場面で使うことができる。
1月	『文化　初級日本語Ⅱ』 26課～29課	・物事の状態を表す「～ている」を使って、相手に注意を促すことができる。 ・引っ越しの準備や手続きなどを知る。 ・「～ように」「～ておく」を使って、何かをするための準備について、説明やアドバイスができる。 ・日本の学校に進学するための準備(オープンキャンパスなど)について知る ・面接試験について知る ・授受表現を使って、誰かにしてもらったことについて述べることができる ・授受表現を使って、人から受けた好意に対してお礼を述べることができる ・親疎の関係、社会的立場での上下関係を理解し、物や好意の授受について待遇表現を使って話すことができる ・「～ようにしている」を使って、日頃努力していることが話せる
2月	『文化　初級日本語Ⅱ』 31課～34課	・「～ようだ／みたいだ」を使って、根拠をもとにした主観的な判断を述べることができる。 ・受身形を使って、迷惑に感じた体験などが話せる。 ・理由を述べて、適切に謝ることができる。 ・受身形を使って述べられた物についての説明が理解できる。 ・ある人物の生い立ちに関するインタビューを聞いて理解できる。 ・目上の人が目下の人に命令や指示をして何かをさせる行為を使役形を使って説明できる。 ・「～たらどうですか」を使って、提案やアドバイスができる。 ・条件を表す表現を「～なら」を使って、アドバイスができる。
3月	『文化　初級日本語Ⅰ』 『文化　初級日本語Ⅱ』　まとめ、(30課)	・これまでに学んだことを復習し、表現することができる。

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	—	—	—	—	50	10	10
提出物・成果物 (ノート、作品等)	20	10	20	6	50	10	26
定期試験 小テスト	80	40	80	24	—	—	64
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
日本語ＩＣ	1年次	2	奥林

科目の目標	・基本的な漢字(JLPT N5・N4レベル)を学びながら、語彙の力を身につける。 ・自分が伝えたいことを、漢字を使って文で表現できるようになる。 ・漢字を含む文章が理解できるようになる。
使用教科書	「日本語能力試験」対策　にほんごチャレンジ　かんじ　N4-5

月	学習内容	学習目標
4月	『にほんごチャレンジ』part1　1課、2課、3課	・N5レベルの漢字の習得 ・JLPT　N5の問題を解くことができる。
5月	『にほんごチャレンジ』part1　4課、5課、6課	・N5レベルの漢字の習得 ・JLPT　N5の問題を解くことができる。
6月	『にほんごチャレンジ』part1　7課、8課、9課	・N5レベルの漢字の習得 ・JLPT　N5の問題を解くことができる。
7月	『にほんごチャレンジ』part1　10課、11課	・N5レベルの漢字の習得 ・JLPT　N5の問題を解くことができる。
8月	夏季休暇	
9月	『にほんごチャレンジ』part2　1課、2課、3課	・N4レベルの漢字の習得 ・JLPT　N4の問題を解くことができる。
10月	『にほんごチャレンジ』part2　4課、5課、6課	・N4レベルの漢字の習得 ・JLPT　N4の問題を解くことができる。
11月	『にほんごチャレンジ』part2　7課、8課、9課	・N4レベルの漢字の習得 ・JLPT　N4の問題を解くことができる。
12月	『にほんごチャレンジ』part2　10課、11課、12課	・N4レベルの漢字の習得 ・JLPT　N4の問題を解くことができる。
1月	『にほんごチャレンジ』part2　13課、14課、15課	・N4レベルの漢字の習得 ・JLPT　N4の問題を解くことができる。
2月	『にほんごチャレンジ』part2　16課、17課、18課	・N4レベルの漢字の習得 ・JLPT　N4の問題を解くことができる。
3月	『にほんごチャレンジ』part2　19課、20課	・N4レベルの漢字の習得 ・JLPT　N4の問題を解くことができる。

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 （行動、発言、発表）	―	―	―	―	50	10	10
提出物・成果物 （ノート、作品等）	20	10	20	6	50	10	26
定期試験 小テスト	80	40	80	24	―	―	64
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
日本語活動	1年次	1	萩原

科目の目標	・日本の文化や習慣などを知る。 ・学校生活に必要な知識やルールを学ぶ。 ・日本語能力試験(JLPT)合格に向けた準備方法について学ぶ。
使用教科書	本校作成教材

月	学習内容	学習目標
4月	生徒便覧を読む 日誌の書き方 日本語コース交流会	・学校生活のルールを知る。 ・先輩との交流を通じて、コミュニケーションに必要な日本語を習得する
5月	校外学習に向けて	・校外学習で使う日本語を理解し、適切な行動がとれるように準備する。 ・校外学習で学んだことを作文し、発表する。
6月	非常事態に備える 暑中見舞いの作成 JLPT模試の受験	・消火器、非常口、AEDの場所や使い方を知る。 ・水消火器を使ってみる。 ・自分の住む地域の防災マップを見て、災害時の避難経路を考える。 ・中学校でお世話になった先生に暑中見舞いを作成し、・手紙書き方、郵送方法などを知る。 ・JLPTの模試を受験し、自分の強みと弱みを知る。
7月	セタ活動 12月実施日本語能力試験(JLPT)申込準備	・日本の夏の文化や習慣などを知る。 ・JLPTのIDの作成、申込方法について学ぶ。
8月	夏季休暇	
9月 10月	浴衣を着てみる 地域の方との交流を深める	・日本の夏の文化や習慣などを知る。 ・地域の活動を通して、活きた日本語を使用する機会を設ける。 ・お礼の手紙の書き方を学ぶ。
11月 12月	JLPT模試の受験 作文 年賀状を書く	・JLPTの模試を受験し、自分の強みと弱みを知る。 ・スピーチ大会の前段階として、自分の経験を言語化する。 ・手紙書き方、郵送方法などを知る。
1月	新年の目標を決める	・新年の抱負を考える。 ・1年間の目標とそれに向けたスケジュールを考える。
2月	スピーチ大会	・人前で発表する態度や方法を実践的に学ぶ。
3月	新入生(後輩)への歓迎のメッセージ作成 7月実施日本語能力試験(JLPT)申込準備	・一年間の学習の成果を生かし、新入生へのメッセージを作成する。 ・JLPTのIDの作成、申込方法について学ぶ。

学習評価

学習の状況・成果等	評　価
「十分満足できる」状況と判断した場合	日本の文化、慣習、規則等に関する学習に主体的に取り組み、その状況・成果等は十分満足できるものであった。
「おおむね満足できる」状況と判断した場合	日本の文化、慣習、規則等に関する学習に取り組み、その状況・成果等はおおむね満足できるものであった。
「努力を要する」状況と判断した場合	日本の文化、慣習、規則等に関する学習に取り組み、その状況・成果等は努力を要するものであった。

履修にあたっての留意点	授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
日本語ⅡA	2年次	4	奥林

科目の目標	・日本語能力試験(JLPT)のN3レベルの文法学習を中心に、「読む」「書く」「話す」「聞く」四技能を総合的に学びながら、JLPTのN3レベルの日本語を学習し、最終的にCEFRのB1レベル到達を目的とする。
使用教科書	主教材:『中級へ行こう 日本語の文型と表現55 第2版』 『中級を学ぼう 日本語の文型と表現56 中級前期 第2版』

月	学習内容	学習目標
4月	『中級へ行こう』 第1課 ファストフード 第2課 地震	★ファストフードから各自の食生活について考え、習得した文型と使って発表することができる。 ★:地震が起きた場合の対処のしかたを知る。日本文化について習得した文型と使って発表することができる。
5月	『中級へ行こう』 第2課 地震 第3課 最近の子ども 第4課 日本のイメージ	★:地震が起きた場合の対処のしかたを知る。日本文化について習得した文型と使って発表することができる。 ★最近の子どもたちの実態を知る。人の性格等について習得した文型と使って発表することができる。 ★日本のイメージについて、習得した文型と使って発表することができる。
6月	『中級へ行こう』 第5課 睡眠 第6課 日本人の発明	★睡眠や日々の生活について、習得した文型と使って発表することができる。 ★日本の発明にまつわり、失敗したこと、自国の発明について、習得した文型と使って発表することができる。
7月	1学期学習内容の復習	1学期に学習した内容を正確に運用し、正しく使用することができる。
8月	夏休み	
9月	『中級へ行こう』 第7課 リサイクルとフリーマーケット 第8課 あいづち	★エコライフについて考える 。日々の取り組みについて、習得した文型と使って発表することができる。 ★日本人の会話の進め方について知る。
10月	『中級へ行こう』 第9課 男の仕事・女の仕事 第10課 ことばの使い方	★仕事について知り、仕事に対する考え方を習得した文型と使って発表することができる。 ★日本での言葉遣いについて知り、運用することができる。
11月	『中級を学ぼう 中級前期』 第1課 音楽と音の効果	★N3～N2レベルでよく使われる文型を習得し、その文型と使って発表することができる。 ★自分の好きな音楽について発表することができる。
12月	2学期学習内容の復習	2学期に学習した内容を正確に運用し、正しく使用することができる。
1月	『中級を学ぼう 中級前期』 第2課 いい数字・悪い数字	★N3～N2レベルでよく使われる文型を習得し、その文型と使って発表することができる。 ★自分の好きな音楽について発表することができる。
2月	『中級を学ぼう 中級前期』 第3課 「面白い」日本	★N3～N2レベルでよく使われる文型を習得し、その文型と使って発表することができる。 ★自国の国民性について発表することができる。
3月	3学期学習内容の復習	3学期に学習した内容を正確に運用し、正しく使用することができる。

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	—	—	—	—	50	10	10
提出物・成果物 (ノート、作品等)	20	10	20	6	50	10	26
定期試験 小テスト	80	40	80	24	—	—	64
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
日本語ⅡB	2年次	2	加納

科目の目標	・中級(JLPT N3レベル)の漢字および語彙を学びながら、語彙の力を身につける。 ・自分が伝えたいことを、様々な語彙を使って表現できるようになる。 ・漢字を含む文章が理解できるようになる。
使用教科書	『JLPT文字・語彙N3 ポイント&プラクティス』

月	学習内容	学習目標
4月	『JLPT文字・語彙N3 ポイント&プラクティス』 1回目～3回目	「生活」に関する語彙を理解し、使えるようになる
5月	『JLPT文字・語彙N3 ポイント&プラクティス』 4回目～6回目	「文化」「自然」「健康」に関する語彙を理解し、使えるようになる
6月	『JLPT文字・語彙N3 ポイント&プラクティス』 7回目～9回目	「人との関係」「気持ち」に関する語彙を理解し、使えるようになる
7月	『JLPT文字・語彙N3 ポイント&プラクティス』 10回目～12回目	「気持ち」「学校」「色々な問題」に関する語彙を理解し、使えるようになる
8月	夏季休暇	
9月	『JLPT文字・語彙N3 ポイント&プラクティス』 13回目～15回目	「お金」「旅行・交通」「仕事」に関する語彙を理解し、使えるようになる
10月	『JLPT文字・語彙N3 ポイント&プラクティス』 16回目～18回目	「仕事」「どのくらい？」に関する語彙を理解し、使えるようになる
11月	『JLPT文字・語彙N3 ポイント&プラクティス』 19回目～21回目	「場所」「時間」「動詞①」に関する語彙を理解し、使えるようになる
12月	『JLPT文字・語彙N3 ポイント&プラクティス』 22回目～24回目	「動詞②」「考える」「話す」に関する語彙を理解し、使えるようになる
1月	『JLPT文字・語彙N3 ポイント&プラクティス』 25回目～27回目	「い形容詞」「な形容詞」「副詞①」に関する語彙を理解し、使えるようになる
2月	『JLPT文字・語彙N3 ポイント&プラクティス』 28回目～30回目	「副詞②」「カタカナ言葉」に関する語彙を理解し、使えるようになる
3月	『JLPT文字・語彙N3 ポイント&プラクティス』 総復習	1年間学習したことの復習をする。

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	―	―	―	―	50	10	10
提出物・成果物 (ノート、作品等)	20	10	20	6	50	10	26
定期試験 小テスト	80	40	80	24	―	―	64
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
日本語ⅡC	2年次	2	萩原

科目の目標	・中級(JLPT N3レベル)の漢字を学びながら、漢字を中心とした語彙の力を身につける。 ・中級レベルの漢字を自ら書くことができる。 ・漢字を含む文章が理解できるようになる。
使用教科書	主教材:　『日本語能力試験問題集　N3漢字スピードマスター』

月	学習内容	学習目標
4月	UNIT1　飛行機	空港や飛行機内で使用する漢字をマスターする。
5月	UNIT2　外出	公共交通機関や公共の場で使用する漢字をマスターする。
6月	UNIT3　リサの生活 UNIT4　マリオの生活(1)	・日常生活で使用する漢字をマスターする。 ・学校生活で使用する漢字をマスターする。
7月	1学期学習内容の復習	1学期に学習した内容を正確に運用し、正しく使用することができる。
8月	夏休み	
9月	UNIT5　マリオの生活(1)	・日常生活で使用する漢字をマスターする。
10月	UNIT6　気持ち・様子・動作	・気持ち・様子・動作を表す漢字をマスターする。
11月	UNIT7　自然	・自然に関する漢字をマスターする。
12月	2学期学習内容の復習	2学期に学習した内容を正確に運用し、正しく使用することができる。
1月	UNIT8　いろいろな経験	・日常生活における特殊な場面で使用する漢字をマスターする。
2月	UNIT9　社会	産業・政治・経済・情報に関する漢字をマスターする。
3月	3学期学習内容の復習	3学期に学習した内容を正確に運用し、正しく使用することができる。

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	80	40	80	24	80	16	80
提出物・成果物（ノート、作品等）	20	10	20	6	20	4	20
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
日本語活動	2年次	1	田中

科目の目標	・日本の文化や習慣などを知る。 ・学校生活に必要な知識やルールを学ぶ。 ・課外活動に向けた準備及び実施後のフィードバックをする。 ・進路について考え、必要な準備を行う。 ・日本語能力試験(JLPT)合格に向けた試験対策を学ぶ。
使用教科書	本校作成教材 模擬試験： オンラインハーフ模試(6，11，2月) ※その他、適宜JLPT N3レベルの聴解・読解問題のプリントを教材として使用する。

月	学習内容	学習目標
4月	新入生に学校を案内しよう 日本語コース交流会	・日本語を使って、学校案内ができる ・後輩との交流を通じて、コミュニケーションに必要な日本語を習得する
5月	校外学習に向けて	・校外学習で使う日本語を理解し、適切な行動がとれるように準備する。 ・校外学習で学んだことを作文し、発表する。
6月	非常事態に備える JLPT模試の受験	・1年生で学習したことをしっかり復習して、非常事態に対応できる日本語力を定着させる ・JLPTの模試を受験し、自分の強みと弱みを知る。
7月	七夕活動 12月実施日本語能力試験(JLPT)申込準備	・日本の夏の文化や習慣などを知る。 ・JLPTのIDの作成、申込方法について学ぶ。
8月	夏季休暇	
9月	インターンシップ事前学習	・インターンシップ申込書類を作成する。 ・インターンシップに参加する際の心得や用語・挨拶等を理解する。
10月	修学旅行に向けて	・旅行の目的を理解し、適切な行動がとれるように日本語を理解する ・修学旅行で体験したことを作文する
11月	JLPT模試の受験 スピーチ発表会の準備	・JLPTの模試を受験し、自分の強みと弱みを知る。 ・後輩にインターンの経験を伝えるための資料や作文を作成する。 ・自己の考え・主張を整理し、日本語で表現できる ・総合的な発信力を身につける
12月		
1月	新年の目標を決める	・新年の抱負を考える。 ・1年間の目標とそれに向けたスケジュールを考える。
2月	スピーチ大会	・人前で発表する態度や方法を実践的に学ぶ。
3月	職業調べ 7月実施日本語能力試験(JLPT)申込準備	・VRT(職業レディネステスト)を実施し、職業の適性を見極める。 ・職業について知り、進路先を具体的にする。 ・春休みのオープンキャンパス参加の準備をする。 ・JLPTのIDの作成、申込方法について学ぶ。

学習評価

学習の状況・成果等	評　価
「十分満足できる」状況と判断した場合	日本の文化、慣習、規則等に関する学習に主体的に取り組み、その状況・成果等は十分満足できるものであった。
「おおむね満足できる」状況と判断した場合	日本の文化、慣習、規則等に関する学習に取り組み、その状況・成果等はおおむね満足できるものであった。
「努力を要する」状況と判断した場合	日本の文化、慣習、規則等に関する学習に取り組み、その状況・成果等は努力を要するものであった。

履修にあたっての留意点	授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
日本語ⅢA	3年次	4	谷垣

科目の目標	・「読む」「書く」「話す」「聞く」四技能を総合的に学びながら、JLPTのN3～N2レベルの日本語を学習し、CEFR B1後半レベルからB2前半レベルの到達を目的とする。 ・多様な価値観を持つ仲間との協働的対話を通して、自らの視野を広げ、大学等で必要な深い思考力を身につけていくことを目的とする。
使用教科書	主教材：『中級を学ぼう 日本語の文型と表現56 中級前期 第2版』

月	学習内容	学習目標
4月	『中級を学ぼう 中級前期』 第1課 音楽と音の効果	★N3～N2レベルでよく使われる文型を習得し、その文型と使って発表することができる。 ★自分の好きな音楽について発表することができる。
5月	『中級を学ぼう 中級前期』 第2課 いい数字・悪い数字	★N3～N2レベルでよく使われる文型を習得し、その文型と使って発表することができる。 ★自分の好きな音楽について発表することができる。
6月	『中級を学ぼう 中級前期』 第3課 「面白い」日本	★N3～N2レベルでよく使われる文型を習得し、その文型と使って発表することができる。 ★自国の国民性について発表することができる。
7月	1学期学習内容の復習	1学期に学習した内容を正確に運用し、正しく使用することができる。
8月	夏季休暇	
9月	『中級を学ぼう 中級前期』 第4課 くしゃみ	★N3～N2レベルでよく使われる文型を習得し、その文型と使って発表することができる。 ★擬音語・擬態語を理解する。
10月	『中級を学ぼう 中級前期』 第5課 私の町	★N3～N2レベルでよく使われる文型を習得し、その文型と使って発表することができる。 ★日本語でメールを作成できる。
11月	『中級を学ぼう 中級前期』 第6課 この日に食べなきゃ、意味がない！	★N3～N2レベルでよく使われる文型を習得し、その文型と使って発表することができる。 ★自国の特別な料理について発表できる。
12月	1学期学習内容の復習	1学期に学習した内容を正確に運用し、正しく使用することができる。
1月	『中級を学ぼう 中級前期』 第7課 お相撲さんの世界	★N3～N2レベルでよく使われる文型を習得し、その文型と使って発表することができる。 ★仕事に応募する際の自己PR文章を作成することができる。
2月		
3月		

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	―	―	―	―	50	10	10
提出物・成果物（ノート、作品等）	20	10	20	6	50	10	26
定期試験 小テスト	80	40	80	24	―	―	64
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
日本語ⅢB	3年次	1	萩原

科目の目標	・中上級(JLPT N2レベル)の漢字および語彙を学びながら、語彙の力を身につける。 ・自分が伝えたいことを、様々な語彙を使って表現できるようになる。 ・漢字を含む文章が理解できるようになる。
使用教科書	『JLPT文字・語彙N2 ポイント&プラクティス』

月	学習内容	学習目標
4月	『JLPT文字・語彙N3 ポイント&プラクティス』 1回目～2回目	「近況」「人柄」に関する語彙を理解し、使えるようになる。
5月	『JLPT文字・語彙N3 ポイント&プラクティス』 3回目～5回目	「人間関係」「仕事」「就職活動」に関する語彙を理解し、使えるようになる。
6月	『JLPT文字・語彙N3 ポイント&プラクティス』 6回目～9回目	「学校」「ショッピング」「道具」「料理」に関する語彙を理解し、使えるようになる。
7月	1学期学習内容の復習	1学期に学習した内容を正確に運用し、正しく使用することができる。
8月	夏季休暇	
9月	『JLPT文字・語彙N3 ポイント&プラクティス』 10回目～12回目	「時間」「副詞」に関する語彙を理解し、使えるようになる。
10月	『JLPT文字・語彙N3 ポイント&プラクティス』 13回目～15回目	「オノマトペ」「健康法」「病院」に関する語彙を理解し、使えるようになる。
11月	『JLPT文字・語彙N3 ポイント&プラクティス』 16回目～18回目	「スポーツ」「伝統文化」「イベント」に関する語彙を理解し、使えるようになる。
12月	2学期学習内容の復習	2学期に学習した内容を正確に運用し、正しく使用することができる。
1月	『JLPT文字・語彙N3 ポイント&プラクティス』 19回目 3学期学習内容の復習	「イベント」に関する語彙を理解し、使えるようになる。 1年間で学習した内容を正確に運用し、正しく使用することができる。
2月		
3月		

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察 (行動、発言、発表)	―	―	―	―	50	10	10
提出物・成果物 (ノート、作品等)	20	10	20	6	50	10	26
定期試験 小テスト	80	40	80	24	―	―	64
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
日本語ⅢC	3年次	2	田中

科目の目標	・中上級(JLPT N2レベル)の漢字を学びながら、漢字を中心とした語彙の力を身につける。 ・中上級レベルの漢字を自ら書くことができる。 ・漢字を含む文章が理解できるようになる。
使用教科書	主教材:　『日本語能力試験問題集　N2漢字スピードマスター』

月	学習内容	学習目標
4月	UNIT1　衣食住	日常生活で使用する漢字をマスターする。
5月	UNIT2　趣味・活動	趣味や各種活動で使用する漢字をマスターする。
6月	UNIT3　人・心・体	人の心や体に関する漢字をマスターする。
7月	1学期学習内容の復習	1学期に学習した内容を正確に運用し、正しく使用することができる。
8月	夏休み	
9月	UNIT4　仕事・組織	仕事・組織で使用する漢字をマスターする。
10月	UNIT5　自然・環境 UNIT6　地域生活	自然・環境・生活に関する漢字をマスターする。
11月	UNIT7　社会	政治・経済・社会問題に関する漢字をマスターする。
12月	2学期学習内容の復習	2学期に学習した内容を正確に運用し、正しく使用することができる。
1月	UNIT8　科学 3学期学習内容の復習	科学に関する漢字をマスターする。 1年間で学習した内容を正確に運用し、正しく使用することができる。
2月		
3月		

学習評価

評価の観点 / 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		合計
	割合点	換算点	割合点	換算点	割合点	換算点	換算点
授業の観察（行動、発言、発表）	80	40	80	24	80	16	80
提出物・成果物（ノート、作品等）	20	10	20	6	20	4	20
合計	100	50	100	30	100	20	100

履修にあたっての留意点	授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。

科目名	対象学年	単位数	担当教員
日本語活動	3年次	1	奥林

科目の目標	・日本の文化や習慣などを知る。 ・進路について考え、必要な準備を行う。 ・日本語能力試験(JLPT)合格に向けた試験対策を学ぶ。
使用教科書	本校作成プリント教材

月	学習内容	学習目標
4月	日本語コース交流会 進路実現に向けて	・後輩との交流を通じて、コミュニケーションに必要な日本語を習得する ・進路実現に向けたスケジュールや必要となる費用等について学ぶ。
5月	校外学習に向けて 進路実現に向けて	・校外学習で使う日本語を理解し、適切な行動がとれるように準備する。 ・校外学習で学んだことを作文し、発表する。 ・面接につかう語彙や表現を学ぶ。 ・面接に向けてビジネスマナーについて学ぶ。 ・企業見学の仕方、マナーについて学ぶ。 ・求人票の見方を理解する。
6月	非常事態に備える JLPT模試の受験	・1・2年生で学習したことをしっかり復習して、非常事態に対応できる日本語力を定着させる ・JLPTの模試を受験し、自分の強みと弱みを知る。
7月	七夕活動 12月実施日本語能力試験(JLPT)申込準備	・日本の夏の文化や習慣などを知る。 ・JLPTのIDの作成、申込方法について学ぶ。
8月	夏季休暇	
9月	進路実現に向けて	・実践に即した面接練習を行う。 ・履歴書を書く際の語彙や表現を学ぶ。 ・履歴書を書く。 ・出願書類を完成させる。 ・内定のお礼状を書く。
10月		
11月	JLPT模試の受験 卒業にむけて	・JLPTの模試を受験し、自分の強みと弱みを知る。 ・3年間を振り返り、自分の経験や思いを日本語で表現できる。 ・卒業アルバムに載せるメッセージを完成する。 ・お世話になった先生への手紙を作成する。
12月		
1月	後輩に向けたメッセージ	・進路に関する経験談を後輩に伝える。
2月		
3月		

学習評価

学習の状況・成果等	評　価
「十分満足できる」状況と判断した場合	日本の文化、慣習、規則等に関する学習に主体的に取り組み、その状況・成果等は十分満足できるものであった。
「おおむね満足できる」状況と判断した場合	日本の文化、慣習、規則等に関する学習に取り組み、その状況・成果等はおおむね満足できるものであった。
「努力を要する」状況と判断した場合	日本の文化、慣習、規則等に関する学習に取り組み、その状況・成果等は努力を要するものであった。

履修にあたっての留意点	授業にふさわしくない言動をとった場合、減点を行う。